

# 英才教育の追究

創造的知能の開発と育成 (20)

個性と能力差に対応した複数指導 (担任) 制 (14)

## 発表会要項

---

聖徳学園小学校  
聖徳幼稚園

## 教育目標

- 1 一人ひとりの子どもの個性を育てる
- 2 知能を伸ばし、創造性豊かな人間性を育てる
- 3 豊かな感性と自立心を育てる

## お誓い三か条

- 一、われわれは 未来をひらく戦士となり  
新しい世界を 開拓します
- 一、われわれは 恥と涙をわきまえて  
光明正大に 行動します
- 一、われわれは 祖国の伝統を重んじ  
祖国と人類のために つくします

# 発表会要項

## 主 題 英才教育の追究

- 創造的知能の開発と育成 (20)
- 個性と能力差に対応した複数指導 (担任) 制 (14)

- 平成 26 年度東京都児童生徒発明くふう展  
において 27 回目の「学校賞」受賞



# 幼稚園

リトミックあそび



遠足



クッキング  
パーティー

自由あそび



運動会







# 小学校

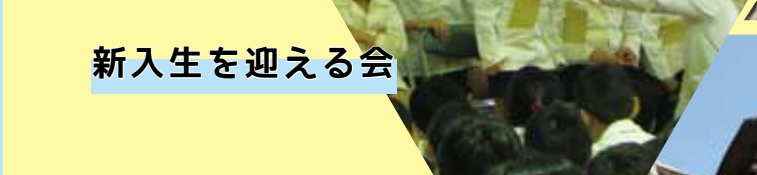
2014 林間学校



ゲーム大会  
(百人一首)



スポーツ大会



新入生を迎える会



修学旅行



聖徳祭

## 第 47 回 公開研究発表会に当たって

～知能を伸ばし、創造性豊かな人間性を育てる教育～

聖徳学園小学校長 和田知之  
聖徳幼稚園長

「氷が溶けたら何になる？」という問いに対して、「水になる」という答えだけではなく、「春になる」と言った柔軟な発想を大切に育てていきたいという願いで、昭和44年（1969）に、個性の伸長と知能教育を基本にした英才教育を開始しました。以来46年間、「知能を伸ばし、創造性豊かな人間性を育てる教育」を目指して、

- 主体的に学ぶ態度、意欲と集中力の育成
- 知能開発～創造的知能の開発と育成～
- 一人ひとりの個性と能力に応じた指導～能力の限界への挑戦～

を重点にした教育活動を重ねてきました。

### ●意欲と集中力の育成で知能と学力の向上

我が国では最近、小学生から大学生に至るまで学力低下の問題が話題になっています。その原因として、子どもたち自身の学習意欲と集中力の低下が大きな要因ではないでしょうか。

知能や学力の向上はもとより、子どもたちが将来社会で活躍していく上でも重要な資質は意欲と集中力になるとの考えから、私たちは幼稚園から小学校低学年までは、まず意欲と集中力の育成に重点をおいています。積極的な意欲と集中力のある子どもの場合は、仮に学校での学習時間や内容が少なくなっても、それこそ「1教えたら10学ぼう」とする意欲を発揮して、自分から主体的に学習を進めていくことができ、また習得率も高くなるからです。

入園したばかりの年少児（3歳児）の知能あそびを見ていると、一つの遊びに集中できる時間はせいぜい15分から30分程度です。なかには、教師の説明はほとんど聞

けず、周囲のことが気になり立ち歩くなど、なかなか集中して取り組めない子もいます。それが3学期頃になってくると、ほとんどの子が40分ぐらいは集中が持続出来るようになってきます。年長児（5歳児）になると、与える教材（遊びの内容）さえ適切であれば、80分間の知能あそびの時間が過ぎて昼食の時間になっても、「もっとやりたい！」言って、遊びを継続することもしばしばです。

このように幼稚園時代は、一人ひとりの子どもをよく観察していると、見違えるように意欲と集中力が身についてくることが分ります。この幼児期の3年間の成長は、小学校入学後の3年間の成長の比ではありません。特に、高学年になっても意欲と集中力が十分身についていない子どもの学習指導は、大変苦勞が伴います。ですから、私たちは幼稚園と小学校の指導上の連携を深め、3歳児から3年生ぐらいまでは、意欲と集中力の育成、つまり主体的に学ぶ態度を育てることに重点をおいているわけです。

こうした意欲と集中力を育成していくためには、日頃から授業（遊び）研究を深め、授業内容や方法に工夫が必要になることは言うまでもありません。子どもたちが授業（遊び）に意欲的に集中して取り組む条件としては、

- 学習（遊び）内容に興味・関心があること
- 難易度が適切であること
- 学習内容に発展性があること

等が重要な要素になってきます。ですから聖徳では、平素から教材研究と教材・教具の作成にはかなり力を注いでいるのです。こうして低学年の間に、意欲と集中力を育成しておく、高学年になるにつれて学力もめきめきと向上してきます。

よく聖徳学園小学校の卒業生は、中学や大学への進学実績が高いが、どのような受験指導をしているのかと言ったような質問を受けます。学校では、特別な受験指導をしているわけではありませんが、受験においても意欲と集中力、知能教育の成果は、結果的に大きなプラスになっていることは事実です。このことは、中学受験より大学受験と上級学校になればなるほど、効果を発揮しています。

## ●創造的知能の開発と育成

意欲と集中力の成果は、学力の向上だけではありません。創造的知能の開発と育成にも大きな成果を発揮してきます。



創造性の教育成果は、評価することはなかなか難しいのですが、一例として発明協会が毎年実施している、「東京都児童生徒発明くふう展」での成果を紹介します。聖徳では、毎年夏休み明けの9月に自由研究展を開催します。これにはほとんど全員の児童が、自分の興味・関心に基づき課題を見つけて、それについてまとめたり製作した作品を出品しています。児童によっては、小学校6年間一貫したテーマで研究を継続して取り組んでいる者もいます。この中から、校内審査を経て「東京都児童生徒発明くふう展」に該当する作品を15点（1校あたり15点までに限定）出品します。その結果、毎年10点くらいの作品が入賞し、これまで25回「学校賞」を受賞しました。そして東京都代表として全国コンクールに出品され、毎年2～3名の作品が入賞しています。

こうした成果を過分に評価していただき、今までに文部科学大臣から7回目の「創意工夫育成功労学校賞」を受賞いたしました。このように、創造的知能の開発と育成では成果を挙げてきたように思っています。この創造性の開発と育成の条件を、これまでの実践結果から要約すると概ね次の通りです。

① 創造的態度を育成する

意欲・集中力・好奇心・根気・いろいろ工夫する態度等

② 個性を啓発して伸長する

③ 創造的知能を刺激し育成する

④ 直観力（直観的思考・ひらめき）を育成する

⑤ 個性と創造性を認め合える学校環境を整える

等です。本日の授業の様子から、少しでも汲み取っていただければと思います。

## ●個性と能力差に対応した複数指導（担任）制

子どもの個性や能力・発達段階は、一人ひとり異なることは言うまでもありません。これに対して一人ひとりにきめ細かな指導をしていくためには、まず少人数による学級編成が必要になってきます。少人数といっても、学校では子ども同士学び合い、刺激し合い、切磋琢磨しながら成長していく側面も大きいので、あまり1学級の人数を少なくすることには教育効果の上で感心しません。また、小集団でなければ、自分の力を発揮できないような子どもに育てても困るのです。

そこで聖徳では、昭和 54 年度から 1 学級の人数は 30 名にして、個人差が顕著な知能訓練や数学の授業において、2 人担任制を試みました。これは一つの教室に 2 人の担任が入って授業を進めるわけですから、2 人の担任の綿密な連携が前提になりますが、個別学習に重点をおく知能訓練や数学の授業では、かなり効果を発揮することが明確になってきました。

現在、複数指導（担任）制を実施しているのは、

幼稚園では、学級担任 カリキュラムあそび

小学校では、学級担任 知能訓練 ゲーム 工作 数学（1～3 年生）です。

また、学年が進むにつれて能力差は段々広がってきますので、数学と知能訓練では 3 年生から、そして国語と英語は 5 年生から能力（習熟度）別にクラス編成して授業を進めております。そのために、一人ひとりの子どもがゆとりを持って授業に取り組み、各自の能力の限界に挑戦することが可能になります。

本学園では複数指導（担任）制のねらいを、

① できるだけ多く（複数）の教師の眼で一人ひとりの子どもを指導する

② 一人ひとりの子どもの個性と能力差に対応したきめ細かな指導をする

この 2 点にあります。本日の授業を通して、複数指導（担任）制の利点を見ていただけたらと思います。

以上の通り、聖徳の教育の基本的な考え方と本日の公開授業（保育）の視点を簡単にまとめておきました。私たちの趣旨を少しでもご理解戴ければ幸いです。

また、本日の授業（保育）内容につきましては、「懇談会」において、意見交換していきたいと思っております。どうぞお気軽にご出席ください。このところ学校教育のあり方について関心を集めておりますが、21 世紀を生きる子どもたちの健全な成長を求めて、皆さん方と共に理想的な授業のあり方を追究していきたいと考えております。本日は、ご参会戴き誠にありがとうございました。

---

## 目 次

---

|                         |    |
|-------------------------|----|
| 第47回 公開研究発表会に当たって ..... | 5  |
| 発表会要項 (時程表) .....       | 11 |
| 会場案内図 .....             | 14 |

### 幼稚園の指導案

#### ◇公開保育〈9:15～10:00〉

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| 本日の公開保育について .....              | 17 |
| 3歳児 (ほし組)「クラス活動 (知能あそび)」 ..... | 18 |
| 3歳児 (はな組)「クラス活動 (造形あそび)」 ..... | 20 |
| 4歳児 (そら・もり組)「知能あそび」 .....      | 22 |
| 4歳児 (そら・もり組)「リトミックあそび」 .....   | 26 |
| 5歳児 (つき・やま組)「体育あそび」 .....      | 29 |
| 5歳児 (つき・やま組)「造形あそび」 .....      | 33 |

### 小学校の指導案

#### ◇公開授業〈9:20～10:20〉

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| 1年生 (のぞみ組)「知能訓練」 .....      | 37 |
| 1年生 (はやて組)「国語」 .....        | 40 |
| 2年生 (くろしお組)「知能訓練」 .....     | 43 |
| 2年生 (はやぶさ組)「数学」 .....       | 47 |
| 3年生 (はまかぜ組)「理科」 .....       | 49 |
| 3年生 (わかしお組)「地理」 .....       | 52 |
| 4年生 (あずさ組)「国語」 .....        | 55 |
| 4年生 (やくも組)「英語Ⅰ」 .....       | 59 |
| 4年生 (やくも組)「英語Ⅱ」 .....       | 61 |
| 5年生 (つばさ組)「理科」 .....        | 63 |
| 5年生 (みずほ組)「家庭」 .....        | 65 |
| 6年生 (あさぎり・しらさぎ組)「数学A」 ..... | 67 |
| 6年生 (あさぎり・しらさぎ組)「数学B」 ..... | 69 |
| 6年生 (あさぎり・しらさぎ組)「数学C」 ..... | 71 |

## 全体会 〈10：30～11：40〉

|                        |    |
|------------------------|----|
| あいさつ .....             | 73 |
| 園児・児童発表 5歳児 歌 唱        |    |
| 4年生 合奏唱                |    |
| 研究発表「自分を知るために ～聖徳の国語～」 |    |

## 平成27年度の研究活動計画

|                    |    |
|--------------------|----|
| 研究部の活動計画 .....     | 77 |
| 知能教育研究部の活動計画 ..... | 78 |
| 国語科研究部の活動計画 .....  | 79 |
| 数学科研究部の活動計画 .....  | 80 |
| 英語科研究部の活動計画 .....  | 81 |
| 理科研究部の活動計画 .....   | 82 |
| 地理科研究部の活動計画 .....  | 83 |
| 歴史科研究部の活動計画 .....  | 84 |
| 体育科研究部の活動計画 .....  | 85 |
| 音楽科研究部の活動計画 .....  | 86 |
| 美術科研究部の活動計画 .....  | 87 |
| 家庭科研究部の活動計画 .....  | 88 |

|                 |    |
|-----------------|----|
| 研究発表会のあゆみ ..... | 91 |
|-----------------|----|

# 発 表 会 要 項

## 1. 主 題：英才教室の追究

創造的知能の開発と育成（20）

個性と能力差に対応した複数指導（担任）制（14）

## 2. 時 程

|    |      |      |       |   |       |       |                          |       |
|----|------|------|-------|---|-------|-------|--------------------------|-------|
|    | 9:00 | 9:15 | 10:00 | 10:30                                   | 10:45 | 11:40 | 11:45                    | 12:30 |
| 受付 | 公開保育 |      | 休憩    | 全体会<br>1. あいさつ<br>2. 園児・児童発表<br>3. 研究発表 |       | 休憩    | 懇談会<br>(小学校4F講堂・<br>音楽室) |       |
|    | 公開授業 |      |       |   |       |       | 解散                       |       |
|    | 9:20 |      | 10:20 |   |       |       |                          |       |

## 3. 内 容

### (1) 授業公開及び保育公開

◇ 公開保育（幼稚園 9:15～10:00） ※4・5歳児は、興味・関心に応じた選択制になっています。

| 年齢 | 組        | 領 域              | あそび設定の視点               | あそびの題目及び内容                   | 会場  | 頁  |
|----|----------|------------------|------------------------|------------------------------|-----|----|
| 3歳 | ほし       | クラス活動<br>(知能あそび) | 一人ひとりの興味・関心を育む複数指導     | ものあてカルタ<br>～ヒントを聞いて、お買い物しよう～ | ほし  | 18 |
|    | はな       | クラス活動<br>(造形あそび) | 子どもたちの興味・関心を引き出す活動     | 絵の具あそび<br>～あじさいの花を咲かせよう～     | はな  | 20 |
| 4歳 | そら<br>もり | 知能あそび            | 一人ひとりの図形での評価力を引き出す二人指導 | 模様作りパズル<br>～形をうまく組み合わせてみよう～  | もり  | 22 |
|    |          | リトミックあそび         | 想像力を豊かにする表現活動          | わくわく鳥の大冒険!!                  | そら  | 26 |
| 5歳 | つき<br>やま | 体育あそび            | 一人ひとりの能力を活かした二人指導      | ラダーに挑戦!<br>～正確な動きを目指そう～      | ホール | 29 |
|    |          | 造形あそび            | 発想を活かした表現を援助する指導       | 空き箱工作<br>～水族館をつくろう～          | つき  | 33 |

◇ 公開授業（小学校 9:20～10:20）

| 学年 | 組    | 教科   | 授業設定の視点                     | 授業の題目及び内容                                | 会場   | 頁  |
|----|------|------|-----------------------------|--|------|----|
| 1年 | のぞみ  | 知能訓練 | 個々の能力を生かし創造的知能の育成を目指した授業    | 言葉の思いつき<br>～条件にあう言葉を沢山考えよう～              | のぞみ  | 37 |
|    | はやて  | 国 語  | 一人ひとりの個性に応じた独自の指導（「構え」について） | 自分の撮った写真を見つける。<br>同じような写真の中にどんな目印があったのか？ | はやて  | 40 |
| 2年 | くろしお | 知能訓練 | 創造的知能の開発と育成を目指した指導          | 漢字共通点ゲーム<br>～形を見て高得点をめざそう～               | くろしお | 43 |
|    | はやぶさ | 数 学  | 創造的知能の開発と育成を目指した学習指導        | 式作りゲーム<br>～創意工夫して四則混合算で<br>色々な答えの式を考えよう～ | はやぶさ | 47 |



| 学年 | 組            | 教科 | 授業設定の視点                   | 授業の題目及び内容                             | 会場         | 頁        |
|----|--------------|----|---------------------------|---------------------------------------|------------|----------|
| 3年 | はまかぜ         | 理科 | 創造的知能の開発と育成を目指した学習指導      | 地形が流水のはたらきによって変化することに気づかせます           | 多目的情報室     | 49       |
|    | わかしお         | 地理 | 一人ひとりの個性（興味・関心）に応じた学習指導   | オリジナルの地図記号を工夫して考え、実際の地図への活用をめざします     | わかしお       | 52       |
| 4年 | あずさ          | 国語 | 一人ひとりの読みと直感力を大切にし、学習課題に迫る | 登場人物の心の奥底にある下心といった気持ちを落語のオチをもとに考えさせます | あずさ        | 55       |
|    | やくも          | 英語 | 一人ひとりの個性や興味・関心・能力に応じた英語教育 | 動物の特徴を表す英語表現などを様々な活動を通して楽しく身につけさせます   | つばさ<br>やくも | 59<br>61 |
| 5年 | つばさ          | 理科 | 光がどのようなものか創造的知能を活用して探究する  | 光の正体が何か、光の諸現象を説明できるモデルを考えさせます         | 理科実験室      | 63       |
|    | みずほ          | 家庭 | 一人ひとりの個性に応じた学習指導          | 家族の一員、頑張り宣言<br>～家族の中での自分の役割を知ろう～      | みずほ        | 65       |
| 6年 | あさぎり<br>しらさぎ | 数学 | 一人ひとりの能力に応じて、規則を考えさせる     | ザ・ピリヤード<br>～規則性を発見しよう～                | しらさぎ       | 67       |
|    |              |    | 一人ひとりに能力の限界に挑戦させる学習指導     | 工夫して考え、いろいろな解法を出しあおう<br>～星型n角形の頂角の和～  | あさぎり       | 69       |
|    |              |    | 創造的知能の開発と育成を目指した学習活動      | 階段の登り方は何通り<br>～日常の生活の中で数列を発見しよう～      | 学習室        | 71       |

(2) 全体会（会場：講堂 10：30～11：40）

- \* あいさつ 園長・校長：和田 知之
- \* 園児発表 5歳児 歌唱
- 4年生 合奏唱
- \* 研究発表 「自分を知るために ～聖徳の国語～」

国語科：川 口 涼 子

(3) 懇談会（会場：講堂・3階教室・音楽室 11：45～12：30）

- \* 懇談会は、下記の三つの分科会に分かれて行います。

| 分科会名    | 主 題   | 主な出席教員                    |
|---------|---|---------------------------|
| 聖徳学園の教育 | 聖徳の教育の特色<br>(聖徳学園小学校・幼稚園の概要及び入園、入学についてお知りになりたい方は、こちらの懇談会にご出席ください。)                    | 園長・校長<br>幼稚園担当者<br>小学校担当者 |
| 幼稚園教育   | 創造的知能の開発と育成を目指した学習指導<br>個性と能力差に対応した複数指導（担任）制<br>(保育内容についてお知りになりたい方は、こちらの懇談会にご出席ください。) | 松浦教頭<br>幼稚園担当者            |
| 小学校教育   | 創造的知能の開発と育成を目指した学習指導<br>個性と能力差に対応した複数指導（担任）制<br>(教科教育についてお知りになりたい方は、こちらの懇談会にご出席ください。) | 齊藤教頭<br>知能訓練担当者<br>小学校担当者 |

**\* 総合案内（9：00～10：30）**

6号館2F（1年はやて組前廊下）に、教職員・案内役が待機しております。教室の場所、授業案内等、ご質問がございましたら、お気軽にお声がけください。

また、本日の内容及び本学園の教育についてのご意見やご質問がありましたら、懇談会へ是非ご参加ください。そちらでお受けいたしております。

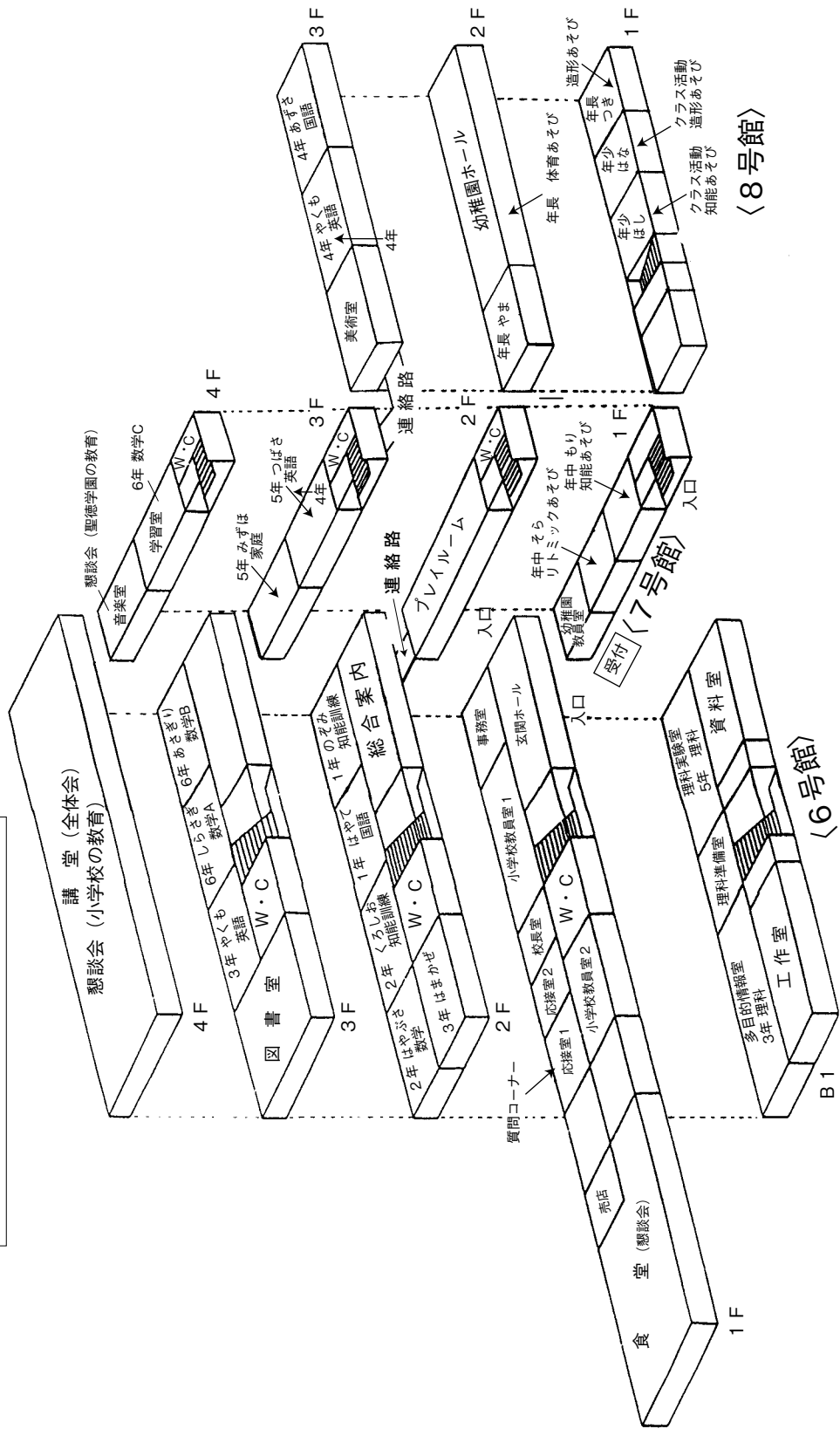
**\* 参考文献**

- 「聖徳の教育」 聖徳幼稚園・聖徳学園小学校刊
- 「数学教材シリーズ」 聖徳学園小学校刊（実費にておわけします）
- 「国語教材シリーズ」 聖徳学園小学校刊（実費にておわけします）
- 「地理教材シリーズ」 聖徳学園小学校刊（実費にておわけします）

# 聖徳学園 幼稚園 案内図

幼稚園  
小学校

6号館と7号館は2階で、7号館と8号館は3階で連絡しています



# 幼稚園の部





## 本日の公開保育について

本園では、「自由保育」を実施しておりますが、その主な活動は、

自由あそび

カリキュラムあそび

の2つの方法で進めています。

カリキュラムあそびは、

◇知能あそび

◇体育あそび

◇リトミックあそび

◇造形あそびの4つのあそびがあります。

4歳・5歳児は、この中の4つのあそびの中から2つのあそびを設定しました。

園児は2つのあそびの内容を担当の先生より聞いて、自分の好きなあそびを主体的に選択して遊びます。

3歳児は、普段は、4つのカリキュラムを一週間かけて順番に実施しています。本日は年齢や実態を考慮して、クラス活動の中でカリキュラム遊びを取り入れて、進めています。

本日の活動は下記の通りです。

|     |       | 9時15分～10時00分  | 内 容  |
|-----|-------|---|--|
| 3歳児 | ほし・はな | ほし  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス活動 (知能あそび)</li> <li>・ものあてカルタ<br/>～ヒントを聞いてお買い物をしよう～</li> </ul>     |
|     |       | はな  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス活動 (造形あそび)</li> <li>・絵の具あそび<br/>～あじさいの花を咲かせよう～</li> </ul>         |
| 4歳児 | そら・もり | <ul style="list-style-type: none"> <li>・知能あそび</li> <li>・リトミックあそび (選択性)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・模様作りパズル<br/>～形をうまく組み合わせてみよう～</li> <li>・わくわく島の大冒険</li> </ul>          |
| 5歳児 | つき・やま | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育あそび</li> <li>・造形あそび (選択性)</li> </ul>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体幹とラダーに挑戦!<br/>～正確な動きを目指そう～</li> <li>・空き箱工作<br/>～水族館を作ろう～</li> </ul> |

|       |                   |                       |
|-------|-------------------|-----------------------|
| 選択の時間 | 9時00分から9時15分      | 子どもたちが、内容説明を聞いて選択します。 |
| 選択の場所 | 4歳児 そら組にて行います。    |                       |
|       | 5歳児 幼稚園ホールにて行います。 |                       |

## クラス活動 (知能あそび) 指導案

9 : 15 ~ 10 : 00 於 : ほし組保育室

※通常、年少組では、クラスごとに自由あそびと4つのカリキュラムあそびを行っているが、本時は、年齢や実態等を考慮して、クラス活動の中に知能的な遊びを取り入れながら進めていく。

指導者 松 浦 雅 美  
北 村 満利恵  
磯 沼 美 紀

1. 年 齢 : 3 歳児 (ほし組)
2. あそび設定の視点 : 一人ひとりの興味・関心を育む複数指導
3. 教材名 : ものあてカルタ ~ヒントを聞いてお買い物をしよう~
4. 本時刺激される知能因子 : 概念で単位を集中思考する (NMU)
5. 本時のねらい : 与えられた概念的なヒントから、あるひとつのものを推理することにより、概念で単位を集中思考する能力を育てる。

### 6. 教材について

知能あそびでは「楽しく遊びながら知的好奇心を育て、考える力 (幅広い思考力) を育てていく」というねらいを基に活動を進めている。特に3歳という低年齢児が、知的な遊びに興味を持って楽しく向かえる様、いろいろな手作り教材を取り入れて日々の活動を行っている。

知能あそびで触れたことをきっかけに、切り紙 (折り紙を折ったものに、はさみで切込みを入れて様々な模様を作っていくもの) に夢中になっている姿や、登園途中で見かけた様々な道路標識を見て、形の仲間分けをしていたという話を保護者の方から何うと、正に、遊びを通して考える力を発揮していることを実感でき、嬉しい気持ちになる。

本時は、こういった“考える力”を育てるきっかけ作りの一つとして、与えられた概念的なヒントから、ある一つのものを推理して答えを出す、ものあてカルタを行う。


例えば「りんご」と聞いて頭に思い浮かぶものという、何が挙げられるだろうか?“くだもの・まるい・赤い・たねがある・ぞうが好き…”など限りなく出てくる。子どもたちにりんごの絵カードを見せると、それが何であるのかを正しく認知出来るであろう。では逆に『赤くて丸くて白雪姫が食べたものは、なあに?』と質問を投げかけたとすると、子どもたちの反応は、どうなるだろうか?“赤い→ポスト? さくらんぼ? トマト? 消防車? りんご?”“丸い→さくらんぼ? トマト? りんご?”“白雪姫が食べたもの? →りんご!”というように、与えられたヒントを手がかりにしながらい推理力を働かせ、ある一つの答えにたどり着かなければならないため難しくなる。つまり認知力からステップアップした集中思考力を要求されるのである。また、この課題は、発問を耳からしっかり聞いて理解し、考えていかななくてはならないので“聞く力”も大切になってくる。集団の中で発問 (話) を聞いて理解する力を、この時期からしっかり育てていきたい。

お買い物のごっこで楽しみつ、子どもたちにとって刺激の多い時間となる様、心がけながらあそびを展開していこうと思う。

### 7. 園児の様子

入園して約2ヶ月。大変活発に遊ぶ姿がみられ、幼稚園生活を楽しめるようになってきた。自由あそびでは、園庭の砂場でお山やケーキを作ったり、また、お部屋の中ではブロック・おままごとなどに夢中になっている。一つの遊びを覚えると、自分からもどんどん広げていけるようになってきた。知能あそびに於いても、好奇心旺盛な瞳を輝かせながら楽しむ姿が印象的である。反面、まだ年齢的なこともあって、長い時間の集中が難しかったり、いつもとは違う状況に戸惑ったりすることも予想されるので、子ども達の様子を複数指導の目できちんと受け止めていきたい。

### 8. 本時の指導過程

| 教材の内容及び活動  | 指導上の留意点   |
|--|---|
| <p>1. あいさつ・出席確認</p> <p>2. 展開</p> <p>○半円になって着席し、3つのグループに分ける。<br/>1グループごとに問題を読み上げ、その答えとなる品物をお買い物する。<br/>(問題例)</p> <p>①皮をむいて食べるものです。<br/>②いくつか、まとまっています。<br/>③黄色いです。<br/>さあ、買ってきて下さい!</p>  <p>(果物シリーズ・おやつシリーズ等、順次カードを入れ替える。)</p> <p>3. 片づけをする。<br/>4. おわりのあいさつをする。</p> | <p>○出席確認をしながら、本日の健康状態等も把握する。</p> <p>T1：問題をすべて聞いてから買いに行く等の約束事項を押さえる。<br/>子どもたちが楽しく取り組めるよう、“お買い物のごっこあそび仕立て”にしながら問題を出す。</p> <p>T2・T3：それぞれ、子どもたちの間に入り、話を聞きもらしている子どもがいないか、また、理解出来ているかを把握し、適宜助言をする。</p> <p>T1・T2・T3：確認は、ポイントカードにスタンプを押す形式で行う。<br/>自分のグループではない問題も一緒に考える様、声掛けをする。</p> <p>○すみやかに片づけられる様、指示する。<br/>○本時の活動を振り返り、次回にも期待が持てるようにする。</p> |

### 8. 評価

活動後、本時の内容を振り返り、子どもたち一人ひとりの取り組みの様子を指導者間で確認し本時のねらいが達成できたかどうかまとめ、次回へとつなげる。

## クラス活動（造形あそび）指導案

9：15 ～ 10：00 於：はな組保育室

※通常、年少組では、クラスごとに自由あそびと4つのカリキュラムあそびを行っているが、本時は年齢や実態等を考慮して、クラス活動の中に造形的なあそびを取り入れながら進めていく。

指導者 園 山 恵理子  
伊 奈 恵 理

1. 年 齢：3 歳児（はな組）
2. あそび設定の視点：こどもたちの興味・関心を引き出す活動
3. 主 題：絵の具あそび ～あじさいの花を咲かせよう～
4. 主題について

子どもたちは、幼稚園でクレパスを使ったお絵かきを楽しんだり、造形あそびにおいては、絵の具で手のひらスタンプを経験したり等、さまざまな色の広がりを体験している。

今回は、まず前時の活動で「ローラー」を用いて、壁面に雨の日の背景を作成する。そして本時において「タンポ」を用いて色鮮やかなあじさいの花を作成する。子どもたちは偶然できる絵の具（タンポ）の色の重なりや色合い・混色を楽しむことが予想される。「絵の具あそびは楽しいな」・「もっとやりたいな」という気持ちを大事にし、みんなで素敵なあじさい畑を完成させる。

### 5. 園児の様子

入園後、幼稚園での生活にも慣れ、好きなあそびをみつけて、お友だちと一緒に遊べるのが嬉しいはな組の子どもたち。4つのカリキュラムあそびも、毎回興味を持って取り組む姿が見られる。造形あそびにおいては、テーマに沿った作品作りやいろいろな素材に触れ、自分の活動した結果が素敵な作品になる喜びを感じているところである。

### 6. 本時のねらい

タンポを用いた楽しい絵の具あそびを経験させる。

## 7. 本時の指導過程

| 教材の内容及び園児の活動   | 指導上の留意点   |
|--|---|
| 1. 始まりのあいさつをする。  | 〈2人の指導者（T1・T2）の動き〉<br>T1・T2：活動に入るあいさつをする。   |
| 2. 本時の内容の説明を聞く。<br>（前時の振り返りを行う。）   | T1：本時の活動内容を説明する。<br>T2：子どもたちの聞く様子を観察し、個別に声をかけながら援助する。                                       |
| 3. あじさいを作ろう。<br><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">花の土台を作る</span><br>1. 画用紙をもらう。<br>2. はさみで花型を切る。                                      | T1：画用紙の大きな花型を実線に沿って切る。見本を見せながら確認していく。<br>T1・T2：はさみの使い方は個別に指導しながら援助していく。                     |
| <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">タンポをしよう</span><br>1. 自分の好きな絵の具をスタンプ台でタンポにつけ、花の土台に色付けをしていく。<br>2. いろいろな絵の具をつけ混色を楽しむ。<br>3. 作品を背景に貼る。 | T1：タンポの使い方を説明する。<br>T1・T2：混色しすぎないように個々に様子を見ながら援助していく。<br>出来上がったあじさいを適宜壁面に貼り、子どもたちの意欲を高めていく。 |
| 4. 片づけをする。   | T1・T2：安全に片付けができるよう、声をかけていく。   |
| 5. 出来上がった作品を鑑賞する。  | T1：出来あがりをみんなで楽しめるような雰囲気をつくる。  |
| 6. あいさつをする   | T1：次回の活動に期待が持てるようにする。   |

## 8. 評価

子どもたちが意欲的に取り組み、それぞれの表現を楽しむことができたかを指導者間で確認し、評価していく。



## 知能あそび指導案

9:15～10:00 於：もり組保育室

指導者 粕加屋 恵 子  
久 保 千 春

1. 年 齢：4 歳児 (そら組・もり組)
2. あそび設定の視点：一人ひとりの図形での評価力を引き出す二人指導
3. 教材名：『模様作りパズル』～形をうまく組み合わせてみよう～
4. 本時刺激される知能因子：図形で体系を評価する (EFS)
5. 本時のねらい

提示した図案と同じ色模様になるように、数種類のピースを台紙の上に配置して形を構成することにより、図形で体系を評価する能力を育てる。

### 6. 教材について

子どもたちは好奇心が旺盛で、興味のあること、やってみたいと感じたことにはとても熱心に取り組む。生活のどの場面においても、あそびや工作などでも自分でやりたいと思ったことには粘り強く何度も取り組んでいく。始めはできないことでも熱心に時間をかけて取り組み、できた時の満足そうな顔はとても輝いている。そして、やり遂げた満足感でまた次への挑戦意欲が高まっていく。日頃、授業で子どもたちと関わっていても、子ども自身の意欲・集中力によって予想以上の力を発揮して驚かされることがある。聖徳幼稚園で、カリキュラムあそびとして複数のあそびを用意し子どもたち一人ひとりが選択して取り組むことは、そうした子どもの興味や意欲を大切にしているところから出発している。また、自分で判断して今日はこれをやろうと決め、内容によって目標を設定しそれに自ら取り組んでいくことは自主性を育てる第一歩だと考えている。

知能あそびでは、パズルやゲームなど考えるあそびを通して子どもたちの知的好奇心を刺激し、知識を教え込むのではなく、自分で考え楽しみながらできる教材を用意している。ゲームやグループ活動など友だちといっしょに取り組む課題もあるが、パズルやカードなど個別に取り組む形式の課題もある。パズル形式の課題では、それぞれがピースを操作し試行錯誤して課題を進めていく中で楽しみながら考える力を養っている。さらに難しいものにも取り組んでいくことで限界に挑戦し、それぞれの子どもたちが充実した時間を過ごせることを望んでいる。

今回の模様作りパズルは、16 枚のピースを使って見本の模様と同じものを台紙に完成させていくものである。ピースは同じ大きさの正方形で、一色または正方形を斜めに二等分した直角二等辺三角形が二色のピースになっており、向きを合わせて組み合わせることでいろいろな模様ができる。見本の図案と同じ模様になるように、配色をヒントにしながら全体の出来あがりの形を体系的にイメージし、一つひとつの位置や向きを判断して台紙に配置し完成させていくことになる。次の

模様パズル（B）では、ピースが表裏両面使えるパズルに挑戦する。三角形のピースの裏面が扇形（4分の1の円）になっている。三角形や扇形の形や向きに着目しながら、それぞれのピースを正確に判断し、工夫してパズルを完成させることになる。

更に挑戦課題として、図案にマス目の線がないものにも取り組んでいく。マス目の線があるパズル以上に高い評価力と集中力が必要になる。こうした発展課題にも取り組み、達成感を味わったり考え抜く充実感を感じていくことで、「またやりたい。」「もっと挑戦したい。」という気持ちを大切に育てたい。

## 7. 園児の様子

4月に年中児に進級して2カ月半、子どもたちは知能あそびにも活発で熱心に取り組んでいる。4月初めの2週間はそれぞれのカリキュラムの楽しさを感じてもらおうようにクラスごとにカリキュラムあそびをしていた。4月下旬から選択制が始まり、選択するようになってからはまだ日が浅いが、徐々に自分で選ぶということにも慣れてきた。自分で選んで取り組むということはやはり意欲にも大いに関係し、毎回積極的な取り組みが見られる。まだグループで協力したり競ってあそぶゲームなど友だちとのやりとりの中では、カードを一人占めしたり友だちの順番が待たなくて自分だけやろうとすることなどもあるが、こうした経験も成長のステップになっていると思う。友だちのやり方を見ることや意見を聞くことは子どもたちにとって大きな刺激になり、考える力を養う上でプラスになっていると感じている。

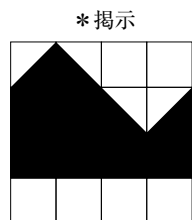
本日は子どもたちが個別に取り組むパズルの課題なので、一人ひとりの取り組み方、とりわけ考える過程（プロセス）を大切に、思考力を養っていきたいと考えている。

## 8. 本時の指導過程

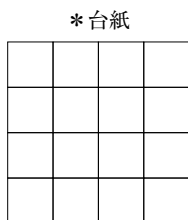
\*最初に2つ（知能あそび・リトミックあそび）の活動内容を子どもたちに説明して選択させる。

時間：9：00～9：15 場所：そら組保育室

| 教材の内容及び園児の活動  | 指導上の留意点等  |
|---|---|
| 1. 始まりのあいさつをする。<br><br>2. 全員で集まってすわり、説明を聞いて、パズルのやり方を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 出席確認して、本日の健康状態等を把握する。</li> <li>T1：説明用の大きな提示と台紙、3種類のピースを使い、パズルのやり方を理解させる。</li> <li>• パズルAの見本と提示を見て考えさせ、子どもたちと一緒に例題の見本と同じ模様を完成させるようにする。</li> </ul> |



\* ピース 合計 16 枚  
 ■ × 6 枚



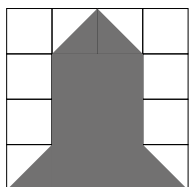
■ × 6 枚  
 ▽ × 4 枚

3. いすを出して机に向かい、パズルの準備をする。

- 三種類のパズルピースを自由に組み合わせていろいろな形を作ってみる。

#### 4. 模様作りパズル A

- 見本冊子、台紙、進度表を受け取り、パズル A に取り組む。
- パズルが完成したら指導者の確認後、見本冊子をめくって次のパズルに取り組む。



- パズル A が終わったら、ピースと見本冊子を所定の場所に返す。

- パズルは、全てのピースを使うことと、ピースは線をまたがず、必ず正方形の枠の中に置くことを理解させる。

T2 : 子どもたちがやり方を理解しているか、一人ひとりの反応と様子を見る。

T1 : パズル B のやり方 (ピースが両面使えることなど) も説明しておく。

T2 : 3 ~ 4 人のグループを作って、席を指定する。

T1・T2 : ・パズルピースを配る。

- パズルピースを操作して、組み合わせ方によっていろいろな形になることに気づかせる。

T1・T2 : やり方を理解してパズルに取り組んでいるか机間巡視して確認をする。

- 4 × 4 マスの目のどの位置にあたるかをよく把握し、三角形 (二色) ピースの向きをうまく合わせて台紙に配置できるよう考えさせる。

- 進度表を用意し、確認後シールを貼って次のパズルに取り組むようにさせる。

- ピースはピース皿に入れて使うなど、隣と混ざらないようパズルの用具の管理も自分でできるように促す。

## 5. 模様作りパズル B (両面ピース)

- パズル B の見本冊子とピースを受け取り、順次取り組む。

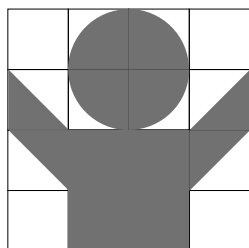
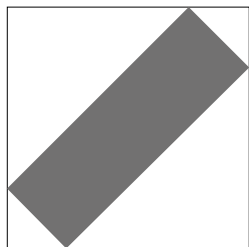


表 裏 (8枚)



表 裏 (8枚)

- 発展課題に挑戦する。



## 6. 片付けをする。

- ゲームの用具を所定の場所に片付ける。

## 7. 終わりのあいさつをする。

T1・T2：個別に見本冊子 B とピースを渡し、パズルに取り組ませる。A と同様に進度表にシールを貼りながら進めさせる。

- 両面のピースから形を選び、台紙のマスに色や形の向きをうまく合わせるよう考えさせる。

- マス目の線がない模様見本のパズルに挑戦させる。
- 形をよく見て試行錯誤しながら取り組ませる。
- すぐにはできなくても挑戦する姿勢を大切にしていける。

T1・T2：片付けの手順を指示する。

- 片付けが速やかに行えるよう対応する。

- 本時のまとめをし、終わりのあいさつをする。

## 9. 評価

- パズルに興味を持って、楽しく取り組むことができたか。
- 全体の形をとらえ、形や向きを合わせてパズルを完成させることができたか。
- 難しい問題に挑戦していくことができたか。

以上の観点から、一人ひとりの取り組みと反応を指導者間で話し合い、評価していく。

## リトミックあそび指導案

9：15～10：00 於：そら組保育室

指導者 荒井明子  
飯濱久美子

1. 年齢：4歳児（そら組・もり組）
2. あそび設定の視点：想像力を豊かにする活動
3. 主 題：わくわく島の大冒険
4. 主題について

幼稚園のリトミックあそびでは、子どもたちからの意見を取り入れながら進めていく自由表現を多く取り入れている。子どもの想像力はとても豊かで、毎回色々な意見が出され、子どもたちがイメージした世界で表現を楽しんでいる。本時は、偶然見つけた地図の一部をきっかけに、まだ名もわからない島へ行ってみようという場面を設定した。それぞれの場面で子どもたちが自分が考えた表現ができるように、ひとりひとりの発想を受け止めながら、進めていきたい。

### 5. 園児の様子

新しいクラスにも慣れ、毎日好きなあそびを見つけて夢中になって遊んでいる姿が見られる。園庭では、虫探しや砂場でのお菓子作り、ごっこあそびやアスレチック探検等、遊びの内容は様々である。

リトミックあそびでは、友だちと一緒に表現遊びを楽しめるように、2人組になる動きを多く取り入れ、楽しんでいる。

### 6. 本時のねらい

- ・子どもたちのイメージする世界の中で、楽しく表現する。
- ・即時反応、音の聴き分け、模唱を体験する。

### 7. 本時の指導過程

\*最初に2つ（リトミックあそび・知能あそび）の活動内容を子どもたちに説明して選択させる。

時間：9：00～9：15 場所：そら組保育室

| 教材の内容及び園児の活動                            | 指導上の留意点   |
|---|---|
| ～準備：裸足・円になる～<br><br>1. リトミックあそびのうた・あいさつ | ○空間を広く使えるよう、環境を整える。<br>* T1：全体を通してピアノをベースに活動を進めていく。<br>* T2：子どもたちと一緒に活動し、様子を見ながら適宜援助していく。<br>○これからリトミックあそびを始める意識を持たせるようにする。 |

## 2. 模唱 (お返事ハイ)

『○○くん』→『はあい』

## 3. わくわく島の大冒険

～導入～

「瓶が流れてきたよ。中に紙きれが入っているみたい。」

「地図かな？」

**出発****【GO&STOP】**

- リズムに合わせて船をこぐ
- STOP…「静かに！ サメがいるかも！」

**島に上陸！** (2枚目の紙きれ見つける)**【音の聴き分け】**

- 砂浜を歩く。
- カニがいる。…→足を挟まれる
- 貝殻を見つめる。…→拾う など

**つり橋発見！** (3枚目の紙きれ見つける)**【音のニュアンス】**

- 静かに渡る。
- 風が吹く…→揺れる など

**ちょっと休もう。** (4枚目の紙きれ見つける)**【模唱 & リズム打ち】**

- リズムスティックを使って、果物の名前を模唱しながらリズム打ちをする。

**最後の紙きれ見つける。山？岩？****【リズムに合わせて】**

- リズムに合わせて山を登る。  
(掛け声のリズムを考える)

**【即時反応】**

- 岩が転がってくる…→頭を押さえてしゃがむ。 など

○一人ひとりの子どもに呼びかけ、きちんと音に合わせて答えられるよう配慮する。

\* T1：子どもたちの気持ちをひきつけるように話しをする。

\* T2：子どもたちから、島に行ってみようかなあという気持ちになるように言葉がけをする。

\* T1：2人組になるように声をかける。

\* T2：2人組になれない子どもには適宜援助する。

○子どもたちの動きを見ながら、速度を変える。

\* T2：空間を広く使えるよう、声かけをする。

\* T1：子どもたちからの意見を引き出す。

\* T2：動きがわからない子どもには声をかける。

○子どもからのイメージを引き出す。

\* T2：子どもたちの先頭に立って進む。

○どんな果物がなっているか、子どもたちから引き出す。

○リズムスティックの扱い方に注意する。

○掛け声やリズムを子どもたちから引き出す。

T2：意見を言えそうな子どもに声をかける。

頂上に到着!!

【模唱】

- 光っていたものは何かな？

紙きれの秘密

- パズルのような紙きれ
- 裏に何かが書いてあるよ。

4. 終わりのあいさつ

○子どもたちからの意見を引き出す。

○本時の活動を振り返り、次回にも期待が持てるようにする。

## 8. 評価

活動後、本時の内容を振り返り、子どもたち一人ひとりの取り組みの様子を指導者間で確認し、本時のねらいが達成できたかどうかまとめ、次回へとつなげる。



リトミック



リトミック

## 体育あそび指導案

9：15～10：00 於：幼稚園ホール

指導者 佐藤 憲夫  
大下 真由美

1. 年 齢：5歳児（つき組・やま組）
2. あそび設定の視点：一人ひとりの能力を活かした二人指導
3. 主 題：体幹とラダーに挑戦！～正確な動きを目指そう～
4. 主題について

最近の子ども達は、外で遊ぶ機会が少なくなり、体力の低下が心配されていて、昔のように遊びの中で体幹（軸）を鍛えることができない傾向がある。そのため意識して鍛える必要がある。

「体幹」とは全身から両手両足をのぞいた身体の軸となる胴体部分を示す。体幹を鍛えることによって、身体のバランスが良くなり安定することで、無駄な動作がなくなり、腕や脚の筋力を最大限に引き出すことができる。人間は、生まれてから、立ち上がって歩き出し、走ったり、投げたり、ジャンプしたりするまでの幼児期に自然と体幹のトレーニングをしていた。体幹を鍛えることで、身体が安定し、怪我や故障をしにくい身体に変わってくるので基礎トレーニングがとても重要である。

今回、最初の導入では「膝をついた姿勢」や「うつぶせの姿勢」などの体幹を行い、身体を安定させるために必要な筋肉（幹）を作ってから、「ラダー」という梯子のような器具を使って、脳からの指令により「どう動くべきか」を判断し、実際に身体を動かすというプロセスをうまく運動させながら、神経系を鍛え、敏捷性を高めながら、正確な動きを意識させる感覚を身につけていきたい。

### 5. 園児の様子

年長組に進級して二ヶ月が経ち、園で最高学年となった喜びを胸に、色々なことへの期待を持ち始めている。当学年は、男児17名、女児31名と女児の比率が多い学年である。自由あそびでは、仲間を集めてかけっこや鬼あそびをしたり、鉄棒や雲梯、縄跳びなどに挑戦する様子が見られ、更に行えるようになりたいという気持ちが強く、毎日繰り返し地道に努力する姿が続いている。本時の体育あそびでは、体幹とラダーを行う中で子ども達が元気いっぱい生き生きとした活動をしている様子を見てほしい。

### 6. 本時のねらい



- ・体幹遊びのトレーニングをしながら、胴体部分を鍛えるようにする。
- ・ラダー遊びをしながら、正確な動きを意識させながら楽しく行えるようにする。



## 7. 本時の指導過程

\*最初に2つ(造形あそび・体育あそび)の活動内容を子どもたちに説明して選択させる。

時間：9：00～9：15 場所：幼稚園ホール

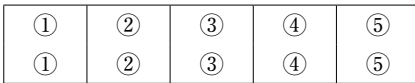
| 園児の活動   | 指導上の留意点  |
|---|--|
| <p>1. 整列と出席の確認(裸足になる。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスごとに整列する。</li> </ul> <p>2. 準備体操</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体をあたたため、これからの活動が十分に<br/>行えるように準備体操をする。</li> </ul> <p>3. あいさつ</p> <p>4. 本時の内容と説明</p> <p>5. 体幹トレーニング(写真参照)</p> <p>1) フロントブリッジ(プランク)</p> <p>10秒×2セット</p> <p>うつぶせの状態から肘と腕を床につけ、目線<br/>を真下にして肘が曲がらないようにする。</p>  <p>2) ダイアゴナルバランス</p> <p>10秒×2セット</p> <p>四つん這いの状態で、左右どちらかの手を<br/>耳の高さまで挙げ、手を挙げた方の反対の脚<br/>を後ろに挙げるポーズをとる。バランスが取<br/>れない場合は、片足の肘をつけて行う。</p>  | <p>〈二人の指導者 T1、T2 の動き〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の動きを見ながら、元気よく体操を行<br/>えるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>～指導者の動き～</p> <p>T1：子どもたちの前で見本を示す。</p> <p>T2：巡回しながら一人一人の様子を見る。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整列させて元気よくあいさつができるよう<br/>にする</li> <li>・本時の予定と注意事項を説明する。</li> <li>・体を一直線にし、体が一番ブルブル震える<br/>ところで10秒間制止する。</li> <li>・伸ばした脚が上に行き過ぎないようにする。</li> <li>・挙げた手が耳の横から下に落ちないこと、<br/>骨盤が左右どちらかに傾かないように気を<br/>つける。</li> </ul> |

6. ラダートレーニング (図参照)  
(簡単な動きから難しい動きへ移行する)

1) 両足ジャンプ

- 両足を揃えてできるだけ早くジャンプ。

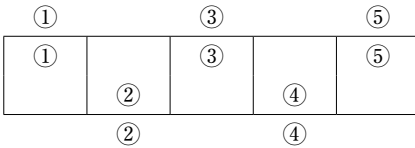
→



2) スラロームジャンプ

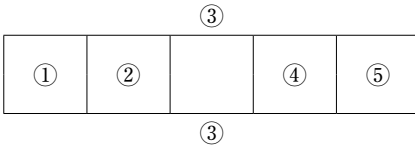
- 足を揃えて左右にジャンプしながら進む。

→



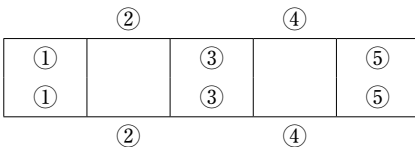
3) ケンケンパ

- 片足で2回続けて着地するようにジャンプ。
- 3回目は両足を開いて着地する。



4) ゲーパー

- 片足で1回ジャンプし、両足で着地する。



- ラダー 4 台使用

～指導者の動き～

T1、T2：うまくできない子どもには補助しながら励ましの言葉をかけていく。

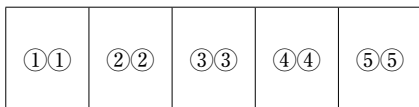
～指導者の動き～

T1：子どもたちの前で見本を示しながら、リードしていく。

T2：子どもたちを補助しつつ、一人ひとりの活動を認めながら、励ましの言葉をかけていく。

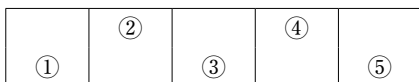
5) ツイスト・ステップ

- 一枠に2歩ずつ足を入れて、下半身のみをひねる。



6) クイックラン

- 基本的なランニングを行う。
- できるだけ素早く走る。



6. 発表

最後に1) から6) まで行った内容の中から好きな動きを発表してもらおう。

7. 整理体操

8. 整列・あいさつ・まとめ

～指導者の動き～

T1：子どもたちの前で見本を示しながら、リードしていく。

T2：子どもたちを補助しつつ、一人ひとりの活動を認めながら、励ましの言葉をかけていく。

- 今回行った中で、興味（好き）を持ったものを発表させる。
- 友達の発表を見て、頑張っている子を認めるようにさせる。
- 本時のまとめと次回の活動について話し、期待を持たせるようにする。

8. 評価

- 色々な動きに興味を持って、楽しく取り組めたか。

主に、一人ひとりの取り組み姿勢や反応などを複数の指導者で確認しながら評価していく。

## 造形あそび指導案

9：15～10：00 於：つき組保育室

指導者 永坂圭子  
高井正恵

1. 年齢：5歳児（つき組・やま組）
2. あそび設定の視点：発想を活かした表現を援助する指導
3. 主題：空き箱工作 ～水族館を作ろう～
4. 主題について

子どもたちは小さな生き物が大好きだ。日ごろから生き物当番でウサギや小鳥とふれあったり、園庭にいる虫を見つけ楽しんだりしている。また、図鑑などでも生き物を見て楽しむ姿も見られている。水族館や動物園にも出かける機会もあることと思う。

先日は、粘土で小鳥を作る活動を楽しんだ。今回は魚を作ることを挑戦していきたい。空き箱を利用して水槽を作り、その中に、自分ならではの小さな「魚の世界」を作っていけるとよいと思う。

### 5. 園児の様子

工作やお絵かきが大好きな子どもたち、自由あそびでも空き箱を利用してロボットやバック、武器などいろいろなものを作って遊んでいる。そんな時には、そこにある材料でいろいろと工夫し、自分のイメージしたものに見立てて楽しんでいる様子が伺える。

造形遊びの中でも、ひとつの課題からイメージを広げ、それぞれの表現を楽しんでいる様子が毎回見られている。作ったり描いたりが大好きな子どもたちなので、これまでの経験も活かし、今回の題材もそれぞれが楽しんで取り組めるのではないかと思う。

### 6. 本時のねらい

- それぞれがイメージを膨らませて水の中の世界を表現する。
- 手順を把握して作品を作り上げる。

## 7. 本時の指導過程

\*最初に2つ(体育あそび・造形あそび)の活動内容を子どもたちに説明して選択させる。

時間：9：00～9：15 場所：幼稚園ホール

| 園児の活動                    | 教師の動き<br>〈T1・T2：2人の指導者〉  | 指導上の留意点  |
|--------------------------|--|--|
| 1. 始まりのあいさつをする。          | T1：活動に入るあいさつをする。<br>T2：人数を確認する。                                      | • あいさつをきちんと行う。   |
| 2. 本時の内容の説明を聞く。          | T1：本時の活動内容を説明する。   | • 魚の特徴がつかめるようにする。<br>• 魚の住んでいる環境を考えさせる。<br>• 作りながらさらに材料が必要な場合にも対応できるようにする。 |
| 3. 材料をもらう<br>必要な材料を取りに行く | T2：箱を配る<br>T1：素材を準備し順番に取りに来るように促す。                                   |  |
| 4. 空き箱で水槽を作る             | T1、T2：紙を丸めて岩を作ったり、海草を作ったりすることなどをアドバイスしながらそれぞれの作業を見守る。                |  |
| 5. 魚を作る                  | T1：魚の作り方を説明する。<br>T2：材料を配る。  | • プラバンの扱い、マジックの扱いに気をつけるようにする。  |
| 6. 仕上げをする。               | T1、T2：魚の模様や形などそれぞれが工夫でききるように声をかける。<br>T2：魚が出来上がった子どもから水槽につるす補助をする。   |  |
| 7. 片づけをする                | T1：名前をつけ、みんなが鑑賞できるように飾っていく。<br>T1：片づけの説明をする<br>T2：仕上がっていない子どもの補助をする。 | • 片付けやすいように指示を出す。  |
| 8. まとめ話を聞く               | T1：今日の活動を振り返る。   | • お友だちの作品も鑑賞しながら工夫した点などを評価して、次回の活動につなげられるようにしていく                           |
| 9. 挨拶をする。                |  |  |

## 8. 評価

水族館をイメージして工夫して楽しく工作が出来たか。

# 小学校の部



## 知能訓練指導案

9：20～10：20 於：のぞみ組教室

指導者 豊田 奈都代  
中川 貴仁

1. クラス名：のぞみ組（1年生）

男子27名 女子7名 計34名 聖徳式（個人）平均IQ142.0

2. 授業設定の視点：個々の能力を生かし創造的知能の育成を目指した指導

3. 教材：言葉の思いつき

4. 本時刺激される知能因子：記号で単位を拡散思考する（DSU）

5. 本時のねらい

示された条件にあてはまる言葉を数多く考えることにより、記号で単位を拡散思考する力を育てる。

6. 教材について

「しりとり」という言葉遊びは大人も子どもも知っていて、だれとでも、どこでも楽しめる遊びである。基本的なルールは「与えられた言葉の語尾が語頭になる言葉を考えてつなげていく。」「一度使った言葉は使えない。」「語尾が『ん』になる言葉を言ったら負け」という三つである。この場合の『言葉』は実際に使われている言葉で、音としての条件を満たしていればどのような言葉でも構わない。

知能訓練の教材では『言葉』を「記号」の領域と「概念」の領域で扱う。『言葉』を意味ではなく文字や音として捉える場合は「記号」の知能因子を刺激する。本時の教材では「しりとり」ではなく、与えられた文字としての条件を満たす言葉をたくさん思いつかせる。まずは同じ語頭の言葉をたくさん考える所から始めるが、文字の位置や文字数などの条件を付け加えることで、より柔軟な発想力が必要な課題となる。いろいろな言葉を思いつくには語彙の豊富さが生きてくるので、概念の力も要素になる。

今までは1年生の2学期末にこの課題を実施してきた。「『あ』で始まる言葉を考えよう」と発問すると、児童一人一人が思いついた言葉で黒板一杯に言葉が並んだ。「さいごに『ん』のつく言葉」では、一人で36個思いついた児童もいる。内容的には「みかん、ラーメン、おでん」のように身近なものから「アルゼンチン、ヤングコーン、マガジン」等のカタカナ表記のものや「ねんかん、なんかん、どっかん、とうみん」など、その児童しか思いつかない言葉もあった。「どこかに『しょう』のつく言葉」は最低でも3つ、最高で19個思いついている。「しょうがっこう、しょうとく」など思いつきやすいものから「たいしょうじだい、しょうにん、きしょうよほうし」なども出た。どの児童も条件を理解し、たくさん思いつこうと努力していた。

今回は入学したばかりの1年生が取り組む教材として、なるべく単純でわかりやすい条件を設定



する。そして、たくさん思いつくこと、自分しか思いつかない発想を楽しめるように授業の進め方を工夫する。また、二人指導制を十分に機能させ、どの児童も自分の力で考える時間を確保するとともに、クラスの友達の発想から刺激を受け、柔軟な思考力を育てていけるような授業にしていきたい。

### 7. クラスの実態と指導の観点

のぞみ組は入学当初から大変元気のよいクラスである。特に知能訓練の授業ではその元気と持ち前の旺盛な好奇心をふんだんに発揮し、楽しみながら課題に取り組んでいる。たとえば「穴開き折り紙」（図形で転換を認知する）課題では、出来上がる穴の図形を自ら見通しを持って推測できる児童が多かった。また、自分の思うような図形にならず失敗しても、もう一度図形を完成させるまで試行錯誤し、あきらめずに取り組む姿勢が確立している児童も多い。しかしながら、知的好奇心が旺盛なあまり、説明を聞き終わらないうちに手が動き始め、課題の理解が不十分なまま進めてしまう児童も見受けられる。

本時は一斉に条件を指定して時間を区切って進める形式であるので、説明時にしっかりと題意を把握できるよう姿勢面を整えていきたい。条件がわかりやすく、たくさんの発想を柔軟に引き出せる教材内容にし、考えることは楽しいという実感が持てるような展開方法を工夫していく。

下記の表は、のぞみ組のIQ及びFQ（知能因子指数）の平均である。本指導で刺激する因子は、『記号』の領域と『拡散思考』の働きである。この表をみると、『記号』『拡散思考』の平均値はIQに比べると低い数値を示している。

| IQ    | 図形    | 記号    | 概念    | 認知    | 記憶    | 拡散思考  | 集中思考  | 評価    |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 142.0 | 147.4 | 136.3 | 142.4 | 139.6 | 153.4 | 139.3 | 136.0 | 141.6 |

本時の課題は『記号』として言葉を扱うが、語彙の豊富さが柔軟な発想につながる為、概念の力や記憶の力も生かして思考を働かせることが予想できる。また、他の人が思いつかないような発想をする質の面を発揮するには評価力も生きてくる。中にはなかなか最初の一つ二つが思いつかずに苦勞する児童もいることが予想されるが、二人指導の最大のメリットである「それぞれの児童の実態に応じた対応」が可能な点を最大限に活かし、個々の能力を引き出し、どの児童も達成感を持って授業にしていきたい。

### 8. 本時の指導過程

| 教材の内容及び学習活動  | 指導上の留意点等   |
|--|--|
| 1. 授業に向かう姿勢を整える。<br>2. 本時の課題に取り組む。<br>【課題1の1】「あ」で始まる言葉を考える。<br>※いろいろな言葉（名詞、動詞、形容詞、文字数等の観点）があることに気づく。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶をし、授業に臨む姿勢を整える。</li> <li>・出席を確認し、本日の健康状態を把握する。</li> </ul> T1：問題を提示し、思いつきを発表させる。全体の様子をつかみ、発表を聞く姿勢を整えさせる。<br>T2：児童の思いついた言葉を板書する。 |

【課題1の2】 「の」で始まる言葉を考える。

① いくつかの言葉を考えた中から、一つ言葉を選んでカードに書く。

※思いついたらすぐを書くのではなく、どのような言葉にするかを考えてから書く。

② 指名されたら答えを発表し、カードを提出する。同じ答えを書いた人もカードを提出する。

※たくさんの人が思いついた言葉と、その人しか思いつかなかった言葉があることを知る。

【課題2の1】 3文字の言葉を考える。

① 各自のプリントに思いついた言葉を書く。

② 思いつきを発表する。

【課題2の2】 5文字の言葉を考える。

① 思いついた言葉を挙手して発表する。

【課題3】 最後に『ん』のつく言葉を考える。

① プリントに言葉を記入する。

② 氏名の書かれたくじびきを引き、思いつきをひとつずつ発表する。

③ それぞれが自分のシートに発表された言葉があったらチェックをし、すべての言葉にチェックが付いたらゲームオーバー。

④ 最後の一つを言えた人がチャンピオンになる。

3. 使用した用具を片づけ、今日の授業の感想をまとめる。

T1：問題を提示し、思いつきの中からもなるべく他の人が思いついていない言葉の一つを選んでカードに書くことを伝える。

T1・2：カードを配布し、作業面、思考面で助言を要する児童、工夫した発想をしている児童を見極め、必要に応じて対応する。

T1：時間を区切り、思いつきを発表させる。

T2：カードを黒板に貼る。

T1：プリントを配布し、課題を提示する。

T1、T2：机間巡視をしながら児童の様子を観察する。

T1：時間で区切り、思いつきを発表させる。独自の思いつきや、柔軟な発想を評価し、次の展開に結び付ける。

T1：課題を提示し、思いつきを発表させる。

T2：発表された言葉を板書する。

※4の発展問題とする。

※難しい問題にも挑戦できたことを評価する。

T1：プリントを配布し、記名を確認する。

課題を提示し、プリントに思いついた言葉を記入させる。

T1：くじ引きを引き、思いつきを発表させ、チェックなどの作業内容を指示する。

T2：机間巡視をしながら、個々に進め方が理解できているかどうかを観察し、必要に応じて対応する。

T1：時間になったら終わりの合図をし、作品を回収する。

T2：児童の感想を聞き、本時の課題がねらいを達成できたかどうかの判断材料とする。

## 9. 評価

児童一人ひとりの課題への取り組みや反応（意欲・集中力・理解度）について指導者二人で分析し、ねらいを達成できたかどうかを実践記録にまとめ、今後にかつ。

## 国語科学習指導案

9:20 ~ 10:20 於はやて組教室

指導者 内 藤 茂

### 1. クラス名：はやて組 (1 年生)

男子 27 名 女子 7 名 計 34 名 聖徳式 (個人) 平均 IQ 142.5

### 2. 授業設定の視点：「構え」のとり方に見る 1 年生の個性

### 3. 主 題：構図から「構え」をつかむ

### 4. 主題 (教材) 設定の理由

#### ・教材観

#### 【カリキュラム上の柱】

- ①思考……論理的思考を中心とした、読み取り考える力を教材を通して知能を刺激する
- ②感情……まだ意識化されていない「感情」に文章を通して触れさせ成長をうながす。
- ③構え……成長の中で目に見えるもの、耳に聞こえるものについて、対象の定め方を見抜き、その対象と視点の関係を把握させること。
- ④用具言語…読んで、書いて、話して、聞いてということを目指す。

一年生一学期の懇談会。本校独自の国語のカリキュラムとして、以下のような説明をしている。「……入学したばかりの子ども達にカメラを持たせ、同じ被写体を様々なアングルで写真を撮らせると、不思議なことに子ども達は自分の撮った写真を間違えることなく選ぶことができます。それは子ども達がシャッターを切るとき、直感的に自分ならではの構図を決めてそれが脳に焼き付いているからです。自分で構図を決めて考えをまとめたり、作者の視点や構図 (しかけ) を見抜くことを「構えをつかむ」と呼んでいます。代表的なものは夏目漱石の『吾輩は猫である』がそうですが、もっと短い文の中で複雑な構えを見抜き、作者がなぜこのような手法をとったのかということ国語の中で考えていくわけです。」

改めて『聖徳の教育』に記される文言を読むといささか抽象的でわかりにくい。公開研究発表会の機会を通して具体的な実践としてみていただきたいと思い、今回の主題を設定した。

#### ・教材観

【写真を撮る】構図の意識に気づかせる。……壺や像を写真に撮らせ誰が撮ったものか照合させる。  
意図された構図があることに気づく

- ①カリキュラムの柱「構え」の領域について、授業を通して理解を深めたい。
- ②直感的な発想、論理的反応から「その子らしさ」を見てもらいたい。

#### 【写真の照合と『一匹の犬』の関係】

『一匹の犬』の出典はイソップ童話からで、肉をくわえた犬が水面に映った自分の姿を見て、「おい、そっちの肉をよこせ」と言った途端に肉を川に落としてしまう、というお話だ。ここには、登

場する犬の気持ちと、それを見て滑稽に感じる2つの視点が存在する。

本授業では、絵本の絵からその視点の違いを子ども達が見つめるか、という点を目標にしたい。

・児童観（クラスの実態）

小学校に入学してまだ3ヶ月たらずの1年生だが、各教科の報告や、授業開始時の挨拶、素読への取り組みを見てもらえれば小学生として順調なスタートであることがわかる。

一方、個別で見ると、話を聞く姿勢や鉛筆の持ち方といった基本的なことはまだこれからであるが、「知能の刺激」といった場合、教材を通して個別に刺激される場合と、一斉の素読や友だちの発表を聞いて起きる集団の中での刺激がある。このような一面も授業の中で見ていただきたい側面である。

【知能構造のプロフィールークラス平均ー】

| IQ    | 図形    | 記号    | 概念    | 認知    | 記憶    | 拡散思考  | 集中思考  | 評価    |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 142.5 | 150.5 | 141.7 | 135.5 | 136.5 | 154.1 | 141.5 | 139.4 | 140.9 |

5. 指導計画

(1) 写真の照合

11人1グループで子ども達にカメラを持たせ、グループごとにテーマにそって一人ひとりが写真を撮る。（友達の影響を受けないように、撮影の時は一人ずつ写すことにする。）

Aグループ 鉄道模型（本時に照合し確認を行う）

Bグループ 水槽の魚

Cグループ 聖徳太子石像

→被写体やアングルの違いで、自分の撮った写真を識別できるか？

(2) 照合したら、なぜ自分の写真とわかるか発表する。（構図の意識化）

(3) 『一匹の犬』の絵をみて、「他所から見た視点」と「犬の考え」という2つの視点があることに気づく。（本時）

(4) 『一匹の犬』の3枚の絵から、お話をつくり発表する。

6. 本時の目標

『一匹の犬』の絵から2つの視点があることに気づく

7. 本時の指導展開

| ねらい   | 学習過程   | 指導の重点および留意点  |
|---|--|--|
| <p>写真の照合<br/>(構図の確認)</p> <p>ひとつの話に2つの視点が仕組まれていることに気づく</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習開始の挨拶</li> <li>○素読（老子ほか）</li> <li>○Aグループ(鉄道模型を中心に) 11名の写真の照合と「なぜ自分の撮ったものかわかるのか」という点について確認する<br/>一枚の写真から即興で簡単な話づくりをさせてみたい。</li> <li>○『一匹の犬』（3枚中、1番目と3番目の写真を提示し、犬に何が起きたか確認する。<br/>・犬が肉をくわえて橋を渡った時、何かの事情で川に肉を落とした。</li> <li>○2番目の絵を提示し、吹き出しに書き込ませる。</li> <li>○犬がどうして肉を落としたのか発表する</li> <li>○2つの視点があることを確認</li> </ul> | <p>声の通りを確認し、学習の構えをつくる。(準備運動)</p> <p>「人とは違った写真にしよう」という意識化されていない最初のグループで行うことにする。<br/>直感的に決めた構図を改めて自分で見分けられるか?という課題である。</p> <p>「犬がくわえていた肉を落とした」という事実を確認</p> <p>犬の立場に立って、落とした事情を類推する</p> <p>事実に対して評価が2つあることに気づかせる。</p> |

10. 評価

お話の「構え」を見抜き、視点の取り方と「構え」の意図に気づく。

## 知能訓練指導案

9:20～10:20 於：くろしお組教室

指導者 横野真弓  
砂廣芳子

1. クラス名：くろしお組 (2年生)

男子 21名 女子 12名 計 33名 聖徳式 (個人) 平均 IQ 140.7

2. 授業設定の視点：創造的知能の開発と育成を目指した指導

3. 教材名：漢字共通点ゲーム

4. 本時刺激される知能因子：図形で分類を評価する (EFC)

5. 本時のねらい

漢字カードから形の共通点を持つグループを作り、高得点を狙ってゲームを行うことで、図形で分類を評価する力を育てる。

6. 教材について

本校の知能訓練科では、漢字を素材とした教材が多くある。一般的には2年生という学年で習得する漢字はごく易しい漢字ばかりで、その漢字のみで教材を構成することは非常に難しい。併設の聖徳幼稚園・英才教室から進学した児童は、幼少の頃から難しいと思われる漢字を図形課題の素材として考える力を伸ばしてきた。幼児であれば漢字パズルがその1つであり、漢字が読めなくても楽しみながらパズルに親しみ、知的好奇心を膨らませている。知能訓練科でも漢字の形から判断してベン図に分類する教材や折り込み漢字パズルなど、その学年・年齢に応じた教材への工夫があり、柔軟な思考へと結びつくよう作成している。長年の教材開発・児童の反応の分析・難易度の見直し等が考える力を育て、知能の伸びに貢献していると言える。

本時の教材は、漢字の部首に着目するだけでなく、同一の形という観点での共通点を見つける。児童の視点でいうならば、漢字の中にカタカナの形があるという発想がある。カタカナのイ・カ・ク・マなどで漢字が構成されているという見方は、本校の国語科でも1年生の時に着目する思いつきである。また、1年生の時にすでに習った漢字そのもの、口・目・月・糸・雨などが部分として見つかるという点でも発見があるのではないだろうか。

今回は、児童の興味を持てる漢字をできるだけ取り入れ、ゲームカードを作成してみた。例えば、「虫」が付く漢字には、様々な種類の生き物があり、「蝸 (かたつむり)」「蛭 (あさり)」など虫以外の仲間も含まれており、昔の生物の分類にまで児童の興味が湧くような素材である。知能訓練の教材というだけでなく、漢字学習への興味の幅を広げるきっかけになればと考える。

本時は、それらの共通点に着目してゲームを行う。一人に3枚ずつ配られた漢字カードの共通な形が1ヶ所ならば10点、共通点が2ヶ所ならば50点、3ヶ所ならば100点と、集めた漢字の共通点の数により点数が決まり、点数の多い人が勝つルールになっている。できるだけ高い点数になる

漢字を集めるという点で、評価力を要する課題である。ゲームを行うことで友だちとの関わりを楽しむだけでなく、ルールを守ることは社会生活の中でも欠かせない経験の場になる。知能訓練科の立場からすると、ゲームの中で自分だけの考えではなく、友だちの考えた工夫にも接することにより影響を受け、更に思考力が伸びることを期待している。

### 7. クラスの実態と指導の観点

指導者二人とも、4月より新たにこのクラスの知能訓練の教科担任を受け持った。クラス全体として意欲はあり、一斉では活発な発言も多いが、個々の学習に切り替わったときには、「この方法でよいのか？」など不安な気持ちを持ってしまい助言を求める児童もいる。

本クラスのIQとFQ（知能因子指数）の平均は以下の通りである。

| IQ    | 図形    | 記号    | 概念    | 認知    | 記憶    | 拡散思考  | 集中思考   | 評価    |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
| 140.7 | 140.4 | 138.0 | 143.5 | 131.1 | 143.8 | 143.8 | 1466.9 | 137.8 |

本時刺激をする図形の因子別平均指数は140.4、評価のそれは137.8であり、「図形で評価する課題」は決して得意とする児童が多いとはいえないが、粘り強く取り組んで欲しい。

一斉での説明は積極的に参加していても、グループ別の対戦になると質問が多くなる事が予想される。本時のゲームに入る前に、実際に漢字カードを広げて見て内容を分類する。その上で、事例を上げながら解りやすく説明し、個々の能力へのきめ細やかな対応を心掛けていく。良い発想は取り上げながら全体の刺激になるように二人指導制を生かして指導していきたい。

### 8. 本時の指導過程

| 教材の内容及び学習活動   | 指導上の留意点 |   |   |   |
|---|---------|---|---|---|
| <p>1. 指導者の説明を聞き、本時の活動内容を理解する。</p> <p>① 3つの漢字の共通点を探す。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>蛤</td> <td>蛞</td> <td>蝸</td> </tr> </table> <p>• 共通点を発表する。</p> <p>② 黒板にゲームカードの漢字を提示して、その中での共通部分のある漢字を3つずつ探す。</p> <p>• 共通点を発表する。</p> | 蛤       | 蛞 | 蝸 | <p>T1：大判の導入ゲームカードを使って、具体的にポイントを絞って説明する。</p> <p>T1：一斉指導を進め、全体の児童の様子をつかみながら、子どもたち自らが気づくように導く。</p> <p>T2：思いついたグループを板書する。</p> |
| 蛤   | 蛞       | 蝸 |   |   |

○漢字カード 60枚

・カード内容

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 狸 | 猪 | 葉 | 猫 | 獾 | 鱒 | 雷 | 鱒 | 保 | 鱒 |
| 猿 | 貉 | 獲 | 騷 | 麟 | 鯉 | 鱗 | 鰻 | 鯽 | 鯉 |
| 驚 | 鱒 | 躍 | 置 | 徳 | 糊 | 露 | 鶴 | 霍 | 雁 |
| 樹 | 聴 | 捨 | 燥 | 耀 | 隣 | 鮭 | 霍 | 雷 | 靄 |
| 雑 | 鳴 | 舎 | 燃 | 桎 | 鷹 | 鶯 | 鶯 | 鶯 | 曜 |
| 蝸 | 蛭 | 俐 | 催 | 蝴 | 蛙 | 蜥 | 蛞 | 蝶 | 蛤 |

○漢字共通部分

十・木・月・口・灬・イ・夕・虫・魚など

③得点表を提示し、実際のゲームの様子を見て理解する。

○得点表

|              |      |
|--------------|------|
| 共通点が1ヶ所のグループ | 10点  |
| 共通点が2ヶ所のグループ | 50点  |
| 共通点が3ヶ所のグループ | 100点 |

○得点記録用紙

| 回戦  | 集めた漢字 | 共通点 | 得点  |
|-----|-------|-----|-----|
| 例   | 蛤・蛞・蝸 | 虫・口 | 50点 |
| 1回戦 |       |     |     |
| 2回戦 |       |     |     |

— ゲームの進め方 —

共通点を持つ3枚の漢字カードを集めるゲーム。

① 3人1グループで行う。

② 一人に3枚ずつ配る。

- ・配られたカードは、自分の前に表にして並べておく。
- ・残りのカードは、山札にして真ん中に置く。

T1・T2：実際に児童が3枚ずつ漢字カードを集める・発表することで、どのような漢字があるのかを確認し、実戦での見通しを持たせる。

例 

|   |
|---|
| 猫 |
|---|

|   |
|---|
| 獾 |
|---|

|   |
|---|
| 獲 |
|---|

 … 彳・彳

|   |
|---|
| 雑 |
|---|

|   |
|---|
| 鱒 |
|---|

|   |
|---|
| 樹 |
|---|

 … 木

T2：机間巡視をしながら児童の様子を観察し、必要に応じて個別対応をする。  
また、追加説明をした方がよい点などを押さえる。

T1：得点の出し方を、しっかりと理解させる。

T1：得点の記録の方法を説明する。

- ・何回戦かゲームを行い、合計点で勝負が決まることを伝える。



|  |   |
|--|---|
| <p>③ 一番目の人は、山札をめくり、自分の手札と見比べて、要らないカードを1枚、表向きにして場に捨てる。</p> <p>④ 次の人は、前の人捨てたカードが欲しければ、それを取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 欲しくなければ山札から1枚取る。そして、要らないカードを1枚、表向きにして場に捨てる。</li> </ul> <p>⑤ ④を繰り返し、得点が50点以上になったら、ストップをかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ストップがかかったら、他の人は、1回ずつカードを交換する。</li> </ul> | <p>T1・T2：ルールを理解を確実にさせる。</p>   |
| <p>2. グループごとに、必要な物を用意してゲームを行う。</p>   | <p>T1・T2：各グループの進行状況を見ながら、随時ルールが正しく理解されているか確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• どうしたら有利なカードの交換の仕方になるか、柔軟に考えられるようにする。</li> <li>• 3枚のカードを集めたら、得点記録用紙に記入する。</li> </ul> <p>T1・T2：机間巡視。特に個々の様子を観察し、必要に応じて個別に対応する。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• 時間を区切り、指示後一巡した時点で終了する。</li> </ul> <p>3. ゲームの道具を片付け、本時の感想をまとめ。</p>   | <p>T1：児童の感想を聞く。高得点を取れた漢字を発表させる。</p>   |

## 9. 評価

本時のゲームが知能因子のねらいを達成できたかどうかを児童の取り組みから分析し、今後の実践に生かす。

## 数学科学習指導案

9:20～10:20 於：はやぶさ組教室

指導者 米 持 勇  
木 村 美 樹

### 1. クラス名：はやぶさ組 (2年生)

男子 21 名 女子 12 名 計 33 名 聖徳式 (個人) 平均 IQ 141.5

### 2. 授業設定の視点：創造的知能の開発を目指した学習指導

### 3. 授業の題目：四則混合算～式作りゲーム～

### 4. 題目について

本校では1年生から4年生までを知能開発期、5・6年生を知能活用期として、知能開発を行っている。知能を刺激する教科としては知能訓練とゲーム・工作だけでなく、各教科でも知能を伸ばすための学習内容を取り入れている。数学でも基本的な知識や技能を習得するだけでなく、知能開発と数学的思考力を養成することを目標とし、教えることより、考えさせることに重点を置いて指導している。特にゲーム教材はそのために最適で、たびたび数学の授業で取り入れてきた。今回の授業では四則混合算を扱う。足し算、引き算、かけ算は1年次に学習し、わり算は2年次5月に学習した。加減乗除が一通り計算できるようになり、混合算の意味や用法についてこの時期に学習する。この授業では四則混合算のまとめ、発展と位置付けて、ゲーム形式で授業を行う。二人一組の対戦形式で、与えられた数を使って工夫して式を作り、試行錯誤して答えを導いていくもので、計算技能と合わせて創意工夫していく姿勢を養いたい。

またこのゲームを通して「拡散思考」の他、答えや式の立て方は正しいのか、どんな答えを出せば相手に勝てるのかを考えることにより「評価」の因子を刺激することが期待できる。

### 5. クラスの実態

本クラスの児童は1年の頃より、数学の課題に興味を持ち活発な学習ができている。どちらかというと、簡単なものよりはある程度難しいものを好む傾向があり、粘り強く正答を導こうと考えていく姿勢が見られる。また数学的なゲームやパズルなど自分で色々と工夫してみる学習にも大変意欲を示す子どもたちである。子どもによっては知識や計算力、工夫して考える力など若干の個人差が見られ、本時のゲームにおいてもルールを理解するために時間を要することが予想されるが、その点においては本校の特徴である二人指導制を活かして、一人ひとりの能力に応じた指導を行っていきたいと考えている。

尚、本クラスのIQ（知能指数）とFQ（知能因子指数）は下記の通りである。

| IQ    | 図形    | 記号    | 概念    | 認知    | 記憶    | 拡散思考  | 集中思考  | 評価    |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 141.5 | 148.3 | 134.1 | 142.2 | 133.8 | 145.6 | 137.7 | 147.7 | 142.6 |

### 6. 指導計画

- 四則混合算の計算…………… 1 校時
- ( ) のついた計算 …… 1 校時
- 四則混合算の式作り…………… 1 校時
- まとめ…………… 1 校時 (本時)

### 7. 本時のねらい

四則混合算のきまりを理解し、式作りを通して創意工夫する能力と粘り強く考えていく姿勢を養っていく。

### 8. 本時の指導過程

| ね ら い                                 | 学 習 活 動  | 指導の重点及び留意点   |    |    |    |    |    |    |    |    |   |   |    |    |   |   |   |    |    |   |    |    |    |    |   |    |    |   |    |    |   |   |   |   |
|---------------------------------------|--|--|----|----|----|----|----|----|----|----|---|---|----|----|---|---|---|----|----|---|----|----|----|----|---|----|----|---|----|----|---|---|---|---|
| <p>(1) 与えられた数字だけでどれだけ式ができるか考える。</p>   | <p>(1) いくつかの数を使ってできる式を一斉で考える。<br/>(2・3・4)</p> <p>例 <math>2+3+4=9</math>    <math>2+3-4=1</math><br/> <math>2\times 3+4=10</math>    <math>2\times 3-4=2</math><br/> <math>4\div 2+3=5</math>    <math>4\div 2\times 3=6</math><br/>                     など</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 式の答えを求めて行く中で、計算の仕方についても再度確認していく。</li> </ul> |    |    |    |    |    |    |    |    |   |   |    |    |   |   |   |    |    |   |    |    |    |    |   |    |    |   |    |    |   |   |   |   |
| <p>(2) ゲームの仕方を理解し、チームで協力してゲームを行う。</p> | <p>(2) 教師対児童で途中までゲームのルールを確認する。<br/>(準備) カード、計算用紙<br/>コマ、ゲーム盤</p> <table border="1" data-bbox="426 1147 762 1296"> <tr><td>10</td><td>3</td><td>2</td><td>12</td><td>22</td><td>6</td><td>36</td><td>42</td></tr> <tr><td>11</td><td>5</td><td>0</td><td>14</td><td>16</td><td>8</td><td>9</td><td>5</td></tr> <tr><td>18</td><td>15</td><td>4</td><td>14</td><td>30</td><td>21</td><td>27</td><td>1</td></tr> <tr><td>24</td><td>25</td><td>1</td><td>16</td><td>20</td><td>7</td><td>9</td><td>6</td></tr> </table> <p>(ゲームのルール)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• はじめに3枚の数字カードを引いて、両チームともにその3つの数字を使っていろいろな式を工夫して考える。</li> <li>• 先攻のチームから作った式の答えと同じ数字をゲーム盤から選んでコマを置いていく。</li> <li>• 置いたコマが縦・横・斜めでも5つ並んだチームが勝ちとする。</li> </ul> | 10   | 3  | 2  | 12 | 22 | 6  | 36 | 42 | 11 | 5 | 0 | 14 | 16 | 8 | 9 | 5 | 18 | 15 | 4 | 14 | 30 | 21 | 27 | 1 | 24 | 25 | 1 | 16 | 20 | 7 | 9 | 6 | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 友達と協力し合ってゲームができるようにする。</li> <li>• 他にどんな式ができるか、思いつかないチームにはヒントも与えていく。</li> <li>• ゲーム盤や数字のカードは勝負のはやくついたチームや能力差に応じて、他の種類のものも用意しておく。</li> </ul> |
| 10                                    | 3  | 2  | 12 | 22 | 6  | 36 | 42 |    |    |    |   |   |    |    |   |   |   |    |    |   |    |    |    |    |   |    |    |   |    |    |   |   |   |   |
| 11                                    | 5  | 0  | 14 | 16 | 8  | 9  | 5  |    |    |    |   |   |    |    |   |   |   |    |    |   |    |    |    |    |   |    |    |   |    |    |   |   |   |   |
| 18                                    | 15   | 4  | 14 | 30 | 21 | 27 | 1  |    |    |    |   |   |    |    |   |   |   |    |    |   |    |    |    |    |   |    |    |   |    |    |   |   |   |   |
| 24                                    | 25   | 1  | 16 | 20 | 7  | 9  | 6  |    |    |    |   |   |    |    |   |   |   |    |    |   |    |    |    |    |   |    |    |   |    |    |   |   |   |   |

## 理科学習指導案

9：20～10：20 於：多目的情報室

指導者 大河内 浩 樹

1. クラス名：はまかぜ組（3年生）

男子22名 女子11名 計33名 聖徳式（個人）平均IQ148.0

2. 授業設定の視点：創造的知能の開発と育成を目指した学習指導

3. 主題：水とのはたらき『流水による川の地形のでき方』

4. 主題について

以前、この単元名は「川の水の働き」だった。川の上流・中流・下流の様子と川の三作用である「浸食」「運搬」「堆積」を中心とした授業内容を4年生で実施していた。その後、「水とその働き」と単元名が変わり、水が自然界を循環していることに重きを置き、水の力でいろいろな地形が形成されることを学ぶ中で、川の流域の様子と川の三作用を取扱うようになった。そして、週5日制の導入に伴うカリキュラム変更によって、3年生での実施となると同時に、それまで重きを置いていた自然界における水の循環は、5年生の単元「天気と気温」へと移行した。このような経緯を経て、現在は、水の働きの中でも“流れる水”に重きを置いて、土地を削ったり、土などを流したり積もらせたりする働き、いわゆる『川の三作用』を中心に取扱うようになった。

流れる水の速さや量にも着目し、曲がった流れの内側と外側の違いや平常時と増水時による流量の違いによって、土地の様子が大きく変化する場面があることも扱うようにしている。

この単元を扱うに当たって障害となるのは、川の学習でありながら、授業内で実地観察を行えないことにある。川の表情は上流・中流・下流と流域によって全く違うので、真の意味での実地観察となると、最低3か所に赴く必要が生じてしまう。そこで、止む無く教育ビデオや資料映像、教科書の資料写真を利用することとなる。現在は、カメラや投影機の飛躍的な進歩によって、実地観察をしなくても、十分対応できるまでになっている。しかし、本校では、少しでも実地観察できる環境を子ども達に与えるべく、年に2度、川の上流域（4年生）と中流域（3年生）の観察会を開催している。画面ではなくライブで諸感覚を使って体験することは、何より効果的だからである。ただ、希望者のみの活動なので、全員が参加できないというデメリットもある。

そこで、流水実験機を使ったモデルでその様子や仕組みを捉えさせる。複雑で、大規模な事象でも、単純化し、スケールを変更したモデルを使えば、実験を行うことができるのである。そして、実験でわかった流水のはたらきが、実際の川のどこに見られるかは、教科書の資料写真や資料映像で対比させてまとめさせる。

5. クラスの実態

毎時間、授業を心待ちにしてくれていて、理科学習への期待感をとても強く感じる。積極的に取り組もうとする子がいる一方で、最後まで指示を聞かずに自己判断で先走ったり、「こうだ!」と思

い込んで思考を硬くしたりする子ども多いし、自信がなくて消極的な子どもいるので気が抜けない。

また、川を身近に感じられるような地域に住んでいる子どもほとんどいないので、川の流れを実際に体験したことのある子ども少ないのが実態である。子ども達の川に対するイメージも護岸されたまっすぐな川であることが多く、増水していない通常時の川の姿であろう。

なお、本クラスのIQとFQ（知能因子指数）の平均は次の通りである。

| IQ    | 図形    | 記号    | 概念    | 認知    | 記憶    | 拡散思考  | 集中思考  | 評価    |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 148.0 | 149.6 | 142.6 | 151.7 | 147.8 | 144.5 | 148.1 | 160.2 | 139.3 |

## 6. 指導計画 (6時間扱い)

- (1) 流れる水の働き……………2時間
  - A. 流水実験機による流れる水と地面の変化
  - B. 流れる水の三作用（浸食・運搬・堆積）
- (2) 川の流れと流域の様子……………3時間
  - A. 流水実験と実際の川の様子と比較
  - B. 流れる水の速さや量と三作用（浸食・運搬・堆積）
- (3) 川原の石の様子……………2時間（本時は2時間目）
  - A. 伏臥状構造
  - B. 石の研磨実験

## 7. 本時のねらい

川原の石は、上流から下流に流される間に、ぶつかって角がとれたり、転がって丸くなったりするので、川の下流では、小さく丸い石が多く見られるということを、実際に体験することで、より深く理解させる。

## 8. 本時の指導過程

| ねらい                           | 学習活動  | 指導の重点及び課題  |
|-------------------------------|---|--|
| 1. 川の上流と下流を比較し、その違いについて考えさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○上流・中流・下流の川幅・流れの速さ・石の様子をまとめる。</li> <li>○なぜ、下流では小さく丸い石が多く見られるのかを考える。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○流れる水には、どのような働きがあったかを、振り返ることで考えさせる。</li> <li>○流水のはたらきの違いが、川原の様子を変えていることを、関連づけられるようにする。</li> </ul> |

|   |   |   |
|---|---|---|
| <p>2. 泥岩と少量の水を茶筒に入れて激しく振り、石の変化を調べる。</p> <p>3. 実験結果をもとに、わかったことをまとめさせる。</p> | <p>○茶筒を100回・500回・1000回・2000回と決めて、その数だけ振ったら、中の石を取り出して、振る前の石の形と比べてみる。</p> <p>○茶筒を振る労力の大変さから、流水の働きのエネルギーの大きさを実感させる。</p> <p>○流れているうちに削られて丸くなること、流れているときにほかの石とぶつかって割れて、小さくなったこと確認する。</p> <p>○石の特徴と川の様子を関連づけて、流れる水の働きをまとめる。</p> | <p>○振る回数が増えるごとに石が丸く小さくなっていくことに気づかせる。</p> <p>○実験結果と実際の石の特徴とを関連づけて考えられるようにする。</p> |
|---|---|---|



川原の観察会



川原の観察会

## 地理科学習指導案

9:20～10:20 於：わかしお組教室

指導者 渡邊孝典

### 1. クラス名：わかしお組 (3年生)

男子22名 女子12名 計34名 聖徳式(個人) 平均IQ146.9

### 2. 授業設定の視点：創造的な活動を通して豊かな視点を育てる学習指導

### 3. 授業の題目：街の写真とその方位を捉え、地図を完成させよう。

### 4. 題目について

本校では、2年生の学期末に特設(年間10時間)として地理の授業を行ない、地理への興味関心を広げ、そして、3年生から本格的に地理の学習がスタートする。

2年生～4年生前半では、「空間的な広がり」をつかませるために、さまざまな角度から地理的事象を眺め、思考させることを目標とし、4年生後半から5年生にかけては、自然環境を広い視野から捉え、人間生活との関係、地域相互の関係を考察し、処理する能力と態度を育成していくことを目標としている。

主な学習内容は下記の通りである。

2年生 「視点の転換(前から見ると・上から見ると)、鳥瞰図の視点(学校から武蔵境までの地図)、空間の連続性(川の絵巻物)」

3年生 「方位、地図記号、地図帳、統計資料、縮図、等高線」

4年生 「地図と地球儀、二万五千分の一地形図、日本の地形・気候・人口」

5年生 「日本の農業・水産業・工業、世界の中の日本」

これまでの学習において、「南にまっすぐ進み、1つ目のT字路を右に曲がり、さらに進んでいくとどこに着く?」といった課題や、「北西に進み、突き当たりを北に曲がり、一つ目のT字路で立ち止まります。そこから、北東方向に見える建物は何?」といった課題に取り組んできた。このような活動を通して、地図を外から見た視点と、地図の中に入った視点の、2つの視点を使い分けられるように指導してきた。本時の学習では、地図の中での自分の位置や建物などの位置関係を適切に把握しながら地図を完成させるとともに、完成した地図を利用しながら色々な道順を考えさせ、豊かな視点を育てることを目的としている。本時は、その発展とまとめの学習として位置付けたものである。コンビニやお花屋さんなど、オリジナルの地図記号も考え、子どもの独創性を刺激し、実際の地図に適切に配置していきたい。これまでの学習を活かし、楽しく学習を進めていければと考える。

### 5. クラスの実態

このクラスは、明るい雰囲気の中で“学ぶ楽しさ”を感じながら、学習することができている。発言も積極的で、「地理」の学習意欲が非常に高いクラスという印象である。

本時では、写真や説明文を手掛かりに地図を完成させていく活動を中心に授業を進めていく。課題によっては、自力解決が難しい場面もある。児童同士での相互の学び合いを大切にしていきたい。

尚、本クラスのIQ（知能指数）とFQ（知能因子指数）は下記の通りである。

| IQ    | 図形    | 記号    | 概念    | 認知    | 記憶    | 拡散思考  | 集中思考  | 評価    |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 146.9 | 153.6 | 140.6 | 146.5 | 145.8 | 146.1 | 145.2 | 158.1 | 139.0 |

## 6. 指導時間と内容

〈方位と地図〉4月～5月

〈地図記号と地図〉5月～6月

- ・前後左右による位置の表し方……………1時間
  - ・四方位による位置や方向の表し方…4時間
  - ・八方位による位置や方向の表し方…4時間
  - ・地図記号について……………4時間
  - ・地図記号と地図の見方……………6時間
- （本時 6/6）

## 7. 本時のねらい

街の写真とその説明文をもとに、地図の中での位置関係を把握し、工夫して地図を完成させる。

## 8. 本時の指導過程

| ねらい   | 学習活動  | 指導の重点及び留意点   |
|---|---|--|
| (1) 止まった状態で、前後左右や東西南北の方向を適切に捉え、建物などを地図に書き入れていくことができる。 | (1) 写真や説明文から、地図上に建物（お店・施設）などのオリジナル記号を入れていく。 | (1) 実際に地図の中に自分が入り込むような場面設定を行なう。地図は基本的には上が北になっていることを確認する。児童に配布するものと同じ地図を黒板に拡大して貼り、全体でわかったことを共有していけるようにする。また、スクリーンには地図完成の手掛かりとなる写真や説明文を映し出す。オリジナルの記号作りのための時間もきちんと確保する。 |
| (2) 動きを伴った状態で、前後左右や東西南北の方向を適切に捉え、道を伸ばしていくことができる。      | (2) コマ送りの形で提示される写真を見ながら、道を伸ばしていき、地図を拡げていく。  | (2) 自分のいる位置だけでなく、向きにも注意させる。<br>写真だけでは、十分に道のつながりや建物の位置関係をつかめない場合には、説明文を読み、再度確認を行なう。また、友達と確認し合う時間を設け、説明し合い、学び合う機会をつくる。   |



説明文の例

「真っ直ぐ北に進んでいくと十字路があり、その北西の四つ角にはコンビニエンスストアがあります。その十字路を右に曲がり、歩いていくと右手に小学校があり、さらに進んでいくと交差点がありました。その交差点を南西方向に曲がり、進んでいくと右手に消防署が見えてきました。」



国際交流相手校校長先生聖徳訪問

## 国語科学習授業案

9：20～10：20 於：あずさ組教室

指導者 板橋 裕之

1. クラス名：あずさ組（4年生）

男子21名 女子9名 計30名 聖徳式（個人）IQ154.5

2. 教材：「ねこの茶わん」（江戸小咄より）

3. 目標：人の心の奥に潜む考え（作意・底意）に気づく

4. 教材設定の理由

(1) 教材観

聖徳学園における国語教育は、その領域を「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域及び「言語事項」といった分け方ではなく、「思考」、「感情」、「構え」の3領域と「用具言語」の四つに分け教材を設定している。そこでの視点は、一言で言うならば、児童の成長課題を各領域ごとに捉えることである。

今回取り上げる「ねこの茶わん」は、領域で言うならば「構え」に属していることもあり、まず、その「構え」とはどのようなものであるかについて若干ふれることにする。

私達は、人は生まれ落ちたときより人間らしい対象の定め方を習得しているものがあり、それを学習という行為を通し把握させることによって、相手をよりよく理解することが出来るばかりでなく、生活経験上、自己を育成するために極めて重要と考えている。そして、その定め方を「構え」という言葉で表現しているのである。

そうした事を前提に「ねこの茶わん」に関し、その教材観を説明することにする。

このお話は、いわゆる「江戸小咄」といわれているものであり、笑い話として落語の世界でよく取り上げられているものである。

ある道具屋が、うまいもうけがないかと地方を回り歩いて掘り出し物を探すのだが、なかなか見つけることが出来ず、茶店で一休みすることにする。ところが、その茶店で探していた掘り出し物を目にするようになる。その茶店の主人が可愛がっている猫をふと見ると、なんと値打ち物の「絵高麗の茶わん」でご飯を食べているのである。道具屋としては、猫のご飯入れに使っているのであれば茶店の主人はその価値を知らないものと思い、安く買ったたこうとする。それが、人の持つ下心であり、多かれ少なかからだれもが持つ意識であるといえる。道具屋としては、下心を見抜かれては元も子もないと考え、まずは何匹かいる猫を手に入れ、その後、もともとのねらいである茶わんを手に入れようとした。ところが、茶店の主人のしたたかさは相当なものであり、道具屋の求めに応じ猫をすんなりと手放し、道具屋がいよいよ本丸とも言える茶わんを求めると、「旦那はご存知かどうか知りませんが、これは絵高麗の梅鉢の茶わんで…黙っていても二百両、三百両なら買い手ある」と断るのである。つまり、茶店の主人はその下心を見抜き、いくらでも手に入る猫だけを

売って小銭を稼いだのである。それは、茶店の主人の下心の結果ともいえるものである。まさに茶店の主人の方が一枚上手であるというわけである。

また、この話は、「この茶わんでご飯を食べさせていますとね、時々、猫が三両で売れますんで……」といった落語特有の落ちで終わるが、その笑いの仕組みを児童が理解する中で、人の心の奥に潜む作意・底意に気づくことになる。

指導観でも述べることになるが、「作意・底意」といったいわゆる下心をそのまま取り上げるとなると、「下心が丸見えだ」「下心を感じて素直になれない」といったように邪心のイメージが強くなってしまいがちであるが、落語の小咄という笑い世界の中で、その「構え」に迫る事が出来るところに本教材の良さがあるといえる。

## (2) 指導観

人の心の奥に潜む作意・底意といった「構え」は、大人はもちろん児童であっても存在するものである。しかし、俗に言う下心は、年端もいかない幼児や児童においては、邪心といった意識が働く青年、大人とは当然その意識も価値といったものも異なってくるといえるのではないだろうか。

つまり、私が良く意識して使う子どもならではの遊び心といったものや、素直な気持ちの一つの表現と捉えて良いのではないかと考えている。例えば、買い物を進んで行うことによってお駄賃をもらえるのではないかと意識や、親に甘えることによって欲しい物をねだるといった子どもならではの行為がそれにあたるものであり、それも言葉で表現するならば幼いながらに働く心の奥底に潜む作意・底意であり、そうした心の働きに気づかせることが本教材のねらいといえる。そして、その気付かせるといった点に関しては、大人の世界にある邪心といった捉え方で気付かせるのではなく、「江戸小咄」を使い笑いを誘う中で気づかせる事が児童にとってはもっとも素直に受け入れることが出来る方法ではないかと考える。それは、精神発達にあった授業展開とも言えるであろう。

そこで、授業では、落ちを考える中で下心を見抜くといった本教材の大きなねらいとともに、児童の日常生活にも視点を当て、何気ない生活の中で子どもならではの遊び心としての下心にも気付かせたいと考えている。

## (3) 児童観

四年生という時期は、よくギャングエイジともいわれる世代であり、徒党を組んで活発に行動する時期でもある。その様子を見ていると、時には大人をひやっとさせるような行為に出る時もある。大人が思いもよらない豊かな発想で行動することもある。また、同時に、見ているといたずら心をフルに発揮しやんちゃぶりを示す時でもある。しかし、そのやんちゃぶりも、たとえば、暑い時に校庭でスプリンクラーが回っていると、はじめは水があたらないように上手によけて遊び、少し水が当たるとそのうちにわざと水にぬれるようにして遊ぶといったように、思わず微笑んでしまうようないたずらといえる。

思わず微笑んでしまうのは、そこに子どもならではの純粋な心があることを大人が見抜いているからであり、その純粋で素直な心の延長として教材観でもふれた可愛らしい行為である「作意・底意」といった行動にも出るのである。クラスの児童を見ていると、やはりここに記した事がそのまま言える児童であり、しかも、そうした行為に対しまだ客観的に捉えるといった事はしない。それ

は、例えば叱られるといった外からの働きかけ等がなければ当然といえることであろう。だからこそ、意識的働きかけがである授業という形の中で気付いてくれればと願ってしまいます。

知能構造のプロフィールークラス平均

| IQ    | 図形    | 記号    | 概念    | 認知    | 記憶    | 拡散思考  | 集中思考  | 評価    |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 154.5 | 165.2 | 148.8 | 149.4 | 151.8 | 155.4 | 153.1 | 169.6 | 142.5 |

### 5. 指導計画（5時間扱い 45分×4 60分×1）

#### (1) 第一の立ち止まりの分析（45分×2）

絵高麗の茶わんを猫のご飯入れに使っている茶店の主人を見て、手に入れようとする道具屋の気持ちを読み取る

#### (2) 第二の立ち止まりの分析（45分×2）

道具屋の下心を確認し、茶わんを手に入れようとするその過程を読み取る

同時に、道具屋も思う通りに事が運んでいるにもかかわらず茶わんを手放さない茶店の主人の気持ちを予想する

#### (3) 第三の立ち止まりの分析（本時 60分×1）

落ちを考える中で、道具屋の下心とともに茶店の主人の下心を読み取る

子ども一人ひとりに、日常生活の中で実際にあるいたずら心ともいえる下心の行為に気づかせる

### 6. 本時の目標

茶店の主人の作意・底意に気づくとともに、身の回りの生活においても同様な行為があることに気づく

### 7. 本時の指導計画

| ねらい                           | 学習活動  | 指導の重点と留意点  |
|-------------------------------|---|--|
| 要点をおさえることにより、全員が同じ視点に立つようにする。 | 素読を読む。<br>前時に分析した箇所を表現読みする。<br>その授業を振り返り、要点をおさえる。         | 教師主導で授業内容を振り返るのではなく、出来る限り児童の側から分析した結果を要領よく発表できるようにさせる。 |
| 根拠ある予想を見出すことが出来るようにする。        | 茶店の主人が「猫の茶わん」を譲らなかったわけを考え合い、それぞれの根拠を明らかにするとともにその正当性を検討する。 | 必ずしも正答を求める必要はなく、これまでの分析をもとに予想出来ればよい。                   |

|   |  |   |
|---|--|---|
| <p>それぞれの予想と実際を比較する中で主人の考えを確認する。</p>           | <p>「落ち」の部分を変文にしてあるプリントをもとに、茶店の主人が「猫の茶わん」を譲らなかったわけを考え合う。</p>                        | <p>予想した事と実際に書かれていることを比較し、茶店の主人の考え方に近づけるようにする。<br/>なぜ、猫にそんな高価なものを使い食べ物を与えていたのか疑問をまず持てればよしとする。</p>    |
| <p>「落ち」を知るなかで、作意・底意に気付く。</p>                  | <p>「落ち」の部分を考え合う中で、笑いの中にある茶店の主人の作意・底意を読み取る。<br/>また、そうであるならば、いつからその意識が働いたのか振り返る。</p> | <p>「落ち」が出ない場合は、教師から正答を提示し、その作意・底意に気付かせる。<br/><br/>どこから、という点ではいくつか意見が分かれるであろうが、それなりの根拠を示せるようにする。</p> |
| <p>自分達の生活の中から同様な出来事を探し出し、そうした構えがあることに気づく。</p> | <p>身の回りの生活においても同様な行為があるかどうか考え合い、確かめ合う。</p>   | <p>具体的な事例を出しあう中で、「なるほど、自分たちにもそうしたことがあったんだ」といった事に気づけるようにさせる。</p>                                     |

## 英語科学習指導案

9:20 ~ 10:20 於: つばさ組教室

指導者 明石 この実

### 1. クラス名: やくも I 組 (4 年生)

男子 10 名 女子 5 名 計 15 名 聖徳式 (個人) 平均 IQ 154.4

### 2. 授業設定の視点: 一人ひとりの個性や興味・関心、能力に応じた英語学習

3 年生から始まる本校の英語学習は、各ホームルームクラスを二つのグループに分け、1 グループ 16 人前後の少人数で行われる。この少人数での授業展開は、45 分の授業の中で子ども一人ひとりに多くの練習・発言の機会を与えている。よりたくさん聴き、話すことが大切という語学学習の基本を踏まえ、何度も繰り返し聞いたり声に出したりする中で、一人一人が少しずつ自信をつけていくことが出来る。基本的には、初めて英語に触れる子どもたちを対象に授業は行われていくが、中には既に英語を学んできている子どもも近年は少なくない。一斉授業では、その差を感じさせない工夫が必要である。活動にゲーム性を持たせたり、歌やリズムで一体感を味わわせたりすることで、初めての子には楽しみながら定着を促し、そして既習の知識がある子には、みんなで学ぶからこそ生まれる楽しさ・ちょっとしたチャレンジ性を感じさせるように心掛けている。実際子どもたちの様子を見てみると、授業と一緒に学び合うことは事前の知識に関わらず「楽しい」ということが良く伝わってくる。それぞれの子がお互いの興味・関心、能力に応じ、影響し合って力を伸ばしている。

授業はほぼ英語のみで行っている。既習の知識を総動員して、知らない言葉も含んだ全体の内容を「推測」していくことも実際のコミュニケーションでは大切なところである。英語を聞き、そこから意味を直接感覚で獲得できるような指示の出し方も心掛けたい。

### 3. 授業のテーマ: “What am I” (私は何でしょう?)

#### 4. テーマについて

今回のテーマ「What am I?」は、4、5 月にテーマとした「About myself (自分について)」に続く二つ目の単元である。子どもたちは、3 年次には「聞いて分かる」「絵を見て言える」ことを目標に「教室内にあるものや文具」「動物」「食べ物」「乗り物」などの基本単語や表現を学ぶとともに、アルファベットの大きい文字・小さい文字の名称・識別、そして音と文字との関係を知る上で基礎となるフォニックスを練習してきた。4 年次では、それらの内容も振り返りながら、書くこと・読むことも加え、発展させていく。

「What am I?」は、3 年次に学んだ「動物」に関する単元を更に深めるかたちで設定されたテーマである。「身体の部位」「動く様子 (形容詞)」「色」「鳴き声」などの語句の組み合わせにより、動物の特徴を捉え、何の動物のことを言っているか推測したり、表現したりを楽しむ。

フォニックスに関しては、音を聞き取って書く段階へ発展させていく。また、単元ごとに少しずつ「対話表現」も取り入れてきた。「Do you know kendama? — What is it?」「How much is it? —

It's 710yen.」など、二枚一組で対応している絵カードを用いて学ぶ。実際、授業の中で自然とこのような言葉が子どもたちから出てくることも多々あるのが興味深いところである。

### 5. クラスの実態

このクラスは英語の学習を始めて2年目の学年である。表現や歌に合わせて動作化することを好み、毎時間生き生きと活動している。ゲームでは、ルールに従い夢中になって取り組むことが出来る。三年時の内容はおおよそ身に付いているが、もう一度丁寧におさらいし、定着を促したいところである。中にはリピート練習を得意としない子や、アルファベットの書き方がまだ十分でない子もいる。活動の中で徐々に自信を付けさせたいと考える。

### 6. 目 標

- ① 動物の特徴を表す表現を身につける。
- ② [f], [g], [h], [j], [k], [l] の音の入った単語を聞いて書ける。
- ③ 様々な活動を通して、英語の楽しさを知る。

### 7. 本時の指導過程

| ね ら い       | 学 習 活 動  | 指導の重点および留意点   |
|-------------|--|---|
| あいさつ        | 1 挨拶をする。<br>2 日付等をノートに書く。<br>3 歌を歌う。           | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 丁寧に書かかれているか。</li> <li>• 元気に大きな声で発音されているか。</li> </ul>     |
| 音と文字との関係の練習 | 4 [f], [g], [h], [j], [k], [l] の音の入った単語を聞いて書く。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 音を確認しながら、正確に書けているか。</li> </ul>                           |
| 動物の表現の練習    | 5 動物の表現をテキストやゲーム活動を通して身につける。                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 正確な発音で読めているか。</li> <li>• 友達の英語にもしっかり耳を傾けているか。</li> </ul> |
| まとめ         | 6 挨拶をする。                                       |   |

## 英語科学習指導案

9：20～ 10：20 於：やくも組教室

指導者 藤 石 勝 巳

### 1. クラス名：やくもⅡ組（4年生）

男子10名 女子6名 計16名 聖徳式（個人）平均IQ156.1

### 2. 授業設定の視点

一人ひとりの個性や興味・関心、能力に応じた英語学習一人ひとりの個性や興味・関心、能力に応じた英語学習個々の子どもたちの興味・関心は様々である。また能力差もある。そういった様々な子どもたちの個性に応えるためには、単純な内容だけを取り入れていても、すぐに授業への興味は失われてしまう。そこで英語の授業では「ちょっと難しい内容」、「心地よい緊張感があるスピード」を心がけている。「簡単そうだけどちょっと頭を使わないと答えがわからない。」や「気持ちを集中していないとすぐに応えられない」と子どもたちが感じてくれればと思っている。そして英語学習の基本はしっかり聞いて、しっかり反復練習することでもある。同時に語学の学習においては特に、子どもが他の子どもから学ぶことの大切さを意識させていければと思っている。本校では1クラスを半分に分け、2グループの少人数で指導している。その少人数指導を活かして一人ひとりの能力、個性に応じていきたい。なお高学年ではネイティブによる授業も行われている。

### 3. 授業のテーマ：“What Am I?”

（動物の特徴を表す英語表現を様々な活動などを通して楽しく身につける。）

### 4. テーマについて

聖徳学園では現在英語教育を3年生から行なっている。来年度（平成28年度）からは1・2年生でも英語の授業をスタートする予定である。3年生では主に英語の音に慣れることを目標としている。そのため子どもたちの身近にある「教室にあるもの」、「動物」、「家の中にあるもの」、「町の中にあるもの」、「職業」、「乗り物」などの語彙を英語で紹介し、日本語にはない英語の音に慣れさせていく。また多くの英語の音を通して、体を動かしながら自然に英語のリズムやイントネーションが身につくようにしている。そして英語の文字の基本となるアルファベットの大文字、小文字を練習し、さらには文字と発音の関係を知る基礎となるフォニックスアルファベットを身につけることで、その後の英語の文字や文の読みに発展させていく。4年生では、3年生で身につけた基礎をもとにして、聞く英語から少しずつ自分について話す英語へと広げていく。「自分の年齢」、「住んでいる所」、「好きな食べ物、動物、スポーツ、色」、「何時に起きるか」、「どうやって学校に来るか」などの質問に答えられるように練習する。また文字についても少しずつ単語レベルの読みから文を読むレベルへと発展させていく。5年生になると、絵本やテーマに基づいた英語学習が中心となる。そして6年生ではさらにテーマを広げ、「水の循環」、「太陽系」、「世界遺産」など、英語を通して環境問題などにも目を向けさせたいと思っている。



今回扱うテーマは４年生で学習する「What Am I?」である。今年度の１学期の前半は、３年生で学習してきた内容を膨らませ、発展させてきた。１学期の後半は３年生で練習してきた動物の名前に加えて、動物の特徴を表す英語を聞いて、何の動物を表しているのか類推する力を伸ばしていく内容である。同時に子どもたちがそれらの表現を自分で上手に表すことができることも目指していければと考えている。

### ５．クラスの実態

４年生はこのクラスは昨年１年間英語を学習し今年度は２年目である。日常的な英語の語彙やアルファベット、フォニックスなど英語の基礎はほぼ身につけている。小学生の耳の良さを活かし、英語の基本的なリズムや発音を自然な形で身につけていってほしいと思っている。

子どもたちも毎時間目を輝かせ、今日ではどんな英語が学べるのか、どんなゲームができるのか楽しみにしている。英語のコミュニケーションで大切な「相手の目を見て会話する」や「しっかり相手の話を聞く」ということにも留意しながら指導していきたい。

### ６．目 標

- ① 動物を英語で色や体の特徴で学ぶ。
- ② フォニックスアルファベットの f, g, h, j, k, l を身につける
- ③ 様々なゲームや活動を通して、英語の楽しさを知る。

### ７．本時の指導過程

| ね ら い      | 学 習 活 動                                   | 指導の重点および留意点   |
|------------|---|---|
| あいさつ       | 1 挨拶をする<br>2 日付等の板書をする<br>3 歌を歌う          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字が丁寧か</li> <li>・元気に大きな声で発音されているか</li> </ul>    |
| フォニックスの練習  | 4 フォニックスアルファベットの練習をする                     | ・しっかり文字と音との関係を身につけているか  |
| 動物の特徴を表現する | 5 動物の色、体の部位などを練習する<br>6 絵本やゲームなどを通じた活動をする | <ul style="list-style-type: none"> <li>・正確に表現できているか</li> <li>・友達の発言に耳を傾けているか</li> </ul> |
| まとめ        | 7 あいさつ                                    |   |

## 理科学習指導案

9:20～10:20 於理科実験室

指導者 三輪 広明

### 1. クラス名：つばさ組 (5年生)

男子22名 女子10名 計32名 聖徳式(個人) 平均IQ181.3

### 2. 授業設定の視点：光の正体を創造的知能を発揮して探究する

### 3. 授業の題目：光の正体

### 4. 題目について

光は、粒子であろうと考えられていた。しかし、光の屈折を考えると粒子であることから説明が難しくなる。また、光の回折、干渉等の現象が明らかになり、光は粒子ではないのではないかという捉え方が起こって来た。さらに時代が進み、光がエネルギーをもつ粒子であると捉えるようになる。光の波動性ととも粒子としての性質の二面があると捉えられている。

本校では、これまで、光の波動性に関しては、特別取り上げることがなかった。3年次の「虫めがね」では、光をレンズに当てたときの光の進み方を学んだ。また、5年次では、「光の進み方」で、密度の違うものに入るときの屈折、反射の現象を学習する。光の進み方に重点を置いた学習となっている。

光とはいかなるものであるのか。この問いかけは、光の本質を探究していくばかりではなく、身の回りにあるものとの捉え方を広げていくものとなるを考える。物質を分子でとらえることが認識を広げていったと同じようにさらに見方を広げることとなるのではないと思われる。身近な現象をもとに考察を進めたい。また、回折、干渉といった現象を通し、粒子ととらえることの限界に迫りたい。そして、光の本質にせまっていきたい。

### 5. クラスの実態

学習に対する意欲が高く、課題を探究していくことを好んでいる。理科の学習に対する意欲も高い。これは実験に対する関心の強さに現れている。また、自身の手で調べて行きたいという意欲が強い点も大きな特徴である。

話し合いに当たっては、科学に対する知識が豊富な人がある一方で、身近な事から考察して行ったり、調べてみたことを手掛かりに考察していったりする面が強い人もいる。両者がいいバランスで授業を盛りたてている。物事を柔軟に考えて行く面での力も素晴らしいものがある。とらわれない物事の見方が、ときに問題の解決に力を貸していることもある。こうした思考面の力が大いに発揮できるのではないかと期待できる。

なお、本クラスの平均IQとFQは以下のとおりである。他の因子と比べ、集中思考力が高い点がクラスの特徴として表れている。本題材の学習で発揮されることが期待できる。

|       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| IQ    | 図形    | 記号    | 概念    | 認知    | 記憶    | 拡散思考  | 集中思考  | 評価    |
| 181.3 | 191.2 | 175.3 | 177.1 | 182.7 | 187.7 | 172.7 | 185.8 | 177.4 |

## 6. 指導計画

- (1) 光の直進性・光の反射……………1校時  
 (2) 光の回折・干渉の実験……………2校時 (本時)

## 7. 本時のねらい

光とは何か、回折、干渉を観察することを通して、考察する。

## 8. 本時の指導過程

| ねらい       | 学習活動  | 指導の重点及び留意点  |
|-----------|---|---|
| 1. 課題の把握  | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">           課題 スリットを通ったレーザー光は、<br/>           どのようなになるのだろうか。         </div> <p>○これまでの経験をもとに予想する。<br/>         ○回折したり、干渉している様子を<br/>         観察する。</p> | <p>○身近な現象を通し予想させる。<br/>         ○安全に留意して観察が進められる<br/>         ようにする。<br/>         ○光の正体が粒子であると考えられ<br/>         るのかという点は常に問いかけな<br/>         がら探究を進めたい。</p> |
| 2. 結果の発表  | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">           課題2 反射・回折・干渉といった現象が<br/>           どうして起こるのか。         </div> <p>○どうしてそのような事が起こるの<br/>         か考察することを通し、光の正体<br/>         を明らかにしていく。</p> | <p>○粒子という捉え方の限界に迫る。</p>   |
| 3. 学習のまとめ |   | <p>○本時の学習のねらいが何か各自で<br/>         まとめさせる。</p>  |

## 家庭科学習指導案

9:20～10:20 於：みずほ組教室

指導者 渡 辺 泰 介

1. クラス名：みずほ組 (5年生)

男子22名 女子10名 計32名 聖徳式(個人) 平均IQ179.1

2. 授業設定の視点：一人ひとりの個性(興味・関心)に応じた学習指導

3. 教 材：『家族の一員、頑張り宣言』

4. 目 標：自分の成長と家族の関わりを考える

5. 教材設定の理由

(1) 教材観・指導観

家庭科というと、子どもたちのイメージは調理実習や裁縫といったものになるのだろうが、「家庭」というテーマを扱う教科であれば、まずは自分の家族であり、その中で自分の存在というものを意識させたい。教科書でも『わが家にズームイン』(「新しい家庭」東京書籍)という項目からスタートしているように、小学校高学年という時期に、これまでの自分の成長を振り返りながら、改めて自分の家族や「家庭」という「自分を支えてくれている環境」に目を向けていくことはとても大切だと考える。

今回の『家族の一員、頑張り宣言』は、家族の中で自分の成長や役割を考え、家族が自分にやってくれていること、自分が家族のためにやっていること(今後やっていきたいこと)などを踏まえたうえで、家庭で「自分が生まれた時の写真」と「現在の写真」の2枚を用意してもらい、それとともに「家族の一員として、これから自分がどんなことを頑張っていきたいか」ということを記入し、それをクラスで発表させる活動がメインとなる。普段はあたり前に感じている「家族」という存在と、その中で自分について目を向けるきっかけとなしてほしい。

(2) 児童観

2度目のクラス替えを経て、新たにスタートしたクラスである。高学年となり、クラブや委員会、さらには特別研究などの授業に大変意欲的に取り組んでいる児童が多い。今年度から始まった家庭科の授業にも興味を示し、実習などを楽しみにしている様子が見える。

今回のテーマに関しては、普段から家庭での手伝いなどを積極的に行っている児童には、改めてその意味や自分の役割に目を向けるきっかけに、また今まであまり意識せずに生活していた子にとっては、自分の周りのことを家族の誰が仕事として担っているのか、そして今後は自分ができる仕事はどんなことなのかを考える機会になったものと思う。

【知能構造のプロフィールークラス平均】

|       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| IQ    | 図形    | 記号    | 概念    | 認知    | 記憶    | 拡散思考  | 集中思考  | 評価    |
| 179.1 | 187.0 | 176.1 | 174.2 | 179.8 | 189.5 | 168.9 | 184.2 | 173.3 |

6. 指導計画

- 自分の一日を振り返る……………1時間
- 家族の役割や仕事について知る……………1時間
- 自分の役割を考え、これから担いたい仕事を考える……………1時間
- これまでの成長を振り返り、頑張り宣言を行なう……………1時間（本時）

7. 本時の目標

自分の役割を意識し、『家族の一員、頑張り宣言』をクラスで発表する。

8. 本時の指導過程

| ねらい                         | 学習活動  | 指導の重点および留意点                                  |
|-----------------------------|---|--|
| ①これまでのふり<br>返り              | ●授業開始の挨拶をする。<br><br>○前時までに確認した「家庭の中の仕事」やそれを「主に誰が分担しているか」を確認する。        | ○授業の構えをつくる。<br><br>○誰に負担が大きいのか、自分でできるものはないか。 |
| ②『家族の一員頑<br>張り宣言』を完<br>成させる | ○写真をメインに、自分の成長と<br>周りの働きかけを考えさせる。                                     | ○見ている人にわかりやすく書けて<br>いるか。                     |
| ③完成した宣言を<br>発表し合う           | ○一人ずつ、作った『宣言』をク<br>ラスの全員の前で発表させる。<br>お互いに感想を述べ合う。<br><br>●授業終了の挨拶をする。 | ○声の大きさや、間の取り方などを<br>意識できているか。                |

## 数学科学習指導案

9：20～10：20 於：しらさぎ組教室

指導者 齊 藤 勇

1. クラス名：あさぎり・しらさぎA組（6年生）

男子17名 女子6名 計23名 聖徳式（個人） 平均IQ183.5

2. 授業設定の視点：一人ひとりの能力に応じて規則性を見つける学習指導

3. 題 目：規則性の応用（ビリヤードの規則性）

4. 題目について

本校では特色のあるカリキュラムを用いており、数列の単元を指導する。簡単な数列については、1年生のテキスト等で触れるが、本格的には5年生で扱う。初めに等差数列（2, 5, 8, 11, 14…）と等比数列（2, 6, 18, 54, 162…）について、一般項の求め方・等差数列の和の求め方を学習する。その後、階差数列などの応用問題に挑戦させる。最終的には、子ども達が自ら規則性を発見し、公式を導けるように指導する。

今回は数列の発展として、ビリヤードの跳ね返り方の規則性について扱うことにした。初めから一般の数列のように数が与えられているのではなく、自分で表を作成するところから始まる。そのために、まずルールをきちんと理解して、表を正確に作ることがポイントになる。また数字が平面上に並ぶため、直線に並んだ数列よりも難易度が高いといえる。さらに表作りを進めていくと、そのままでは発見した規則性が成り立たなくなる箇所が出てくる。それを解決するためには、4年生の時に学習した倍数・約数の考え方も必要となる。

以上のように一筋縄ではいかない課題であるが、思考を巡らせて、たくさんの規則性を発見してほしいと思う。

5. クラスの実態

男女合わせて23名のクラスである。一斉授業では、挙手をしてしっかりと自分の考え方を発表できる。全体的に落ち着いており、友達の意見も静かに聞くことができる。一方個別課題の時は思考速度に幅があるものの、自分のペースでこつこつと取り組んでいる。本時で扱うパズル的な要素を含んだ課題には大変興味を示すので、柔軟な思考を生かして最少手順と規則性を発見することに期待したい。

本クラスのIQとFQ（知能因子指数）の平均は、以下の通りになっている。本時の授業では「図形」「記号」の領域と「拡散思考」「集中思考」の働きを刺激していく。

| IQ    | 図形    | 記号    | 概念    | 認知    | 記憶    | 拡散思考  | 集中思考  | 評価    |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 183.5 | 189.8 | 182.4 | 178.1 | 183.8 | 188.2 | 180.3 | 186.0 | 179.0 |

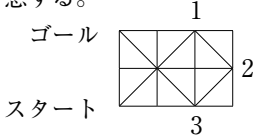
6. 指導計画

(1) 規則性の応用…………… 1校時 (本時)

7. 本時のねらい

長方形のたて・横の長さを色々に変化させた時、長方形の頂点にたどり着くまでに跳ね返る回数を表にまとめ、それをもとにして規則性を発見することができる。

8. 本時の指導過程

| ねらい   | 学 習 活 動  | 指導の重点及び留意点 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |  |   |   |   |  |  |
|---|--|------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--|---|---|---|--|--|
| <p>1. 黒板に提示した図形を使い、玉の動き方や跳ね返り方について確認させる。</p> <p>2. 長方形のたてと横の辺を色々に変化させ、跳ね返る回数を調べさせる。</p> <p>3. 規則性について考えさせる。</p> | <p>ルールを理解して、辺の長さを色々変えると、跳ね返る回数がどのようになるのかを予想する。</p> <p>(例) ゴール</p>  <p>スタート</p> <p style="text-align: right;">A. 3回</p> <p>辺の長さの変化とともに、跳ね返る回数がどのように変化するかを調べる。その後、ワークシートの表にまとめる。</p> <table border="1" data-bbox="459 981 765 1207"> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>…</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>…</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>…</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>…</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>…</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⋮</td> <td>⋮</td> <td>⋮</td> <td></td> </tr> </table> <p>表をもとにして規則性を考え、発表する。</p> |            | 1 | 2 | 3 | … | 1 | 0 | 1 | 2 | … | 2 | 1 | 0 | 3 | … | 3 | 2 | 3 | 0 | … | 4 | 3 | 1 | 5 | … |  | ⋮ | ⋮ | ⋮ |  | <p>「ビリヤード」という題材で、興味を持たせる。</p> <p>跳ね返る回数を調べる時に、マス目のかいてある用紙を利用する。</p> <p>跳ね返る回数が多くなった時、数え間違いがないように注意する。</p> <p>表が完成した子は、その先の数値についても調べさせる。</p> <p>たてと横の長さが互いに素の時とそうでない時の規則性の違いに注意させる。</p> |
|   | 1  | 2          | 3 | … |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |  |   |   |   |  |  |
| 1   | 0  | 1          | 2 | … |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |  |   |   |   |  |  |
| 2   | 1  | 0          | 3 | … |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |  |   |   |   |  |  |
| 3   | 2  | 3          | 0 | … |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |  |   |   |   |  |  |
| 4   | 3  | 1          | 5 | … |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |  |   |   |   |  |  |
|   | ⋮  | ⋮          | ⋮ |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |  |   |   |   |  |  |

## 数学科学習指導案

9：20～10：20 於：あさぎり組教室

指導者 松崎 昭彦

1. クラス名：あさぎり・しらさぎB組（6年生）

男子12名 女子14名 計26名 聖徳式（個人）平均IQ 169.9

2. 授業設定の視点：一人ひとりに、能力の限界に挑戦させる学習指導

3. 授業の題目：星型  $n$  角形の頂角の和

4. 題目について

正星型  $n$  角形とは、円周を  $n$  等分した点を1点（または数点）おきに結んだ図形である。正星型五角形は「ペンタグラム」「ソロモンの星」などと呼ばれ、また正星型六角形はイスラエルの国旗にも使われており、いずれも目にする事の多い図形である。これらの形を多少ゆがめることで、正のつかない一般的な星型  $n$  角形を得ることができる。

星型  $n$  角形には興味深い性質がたくさんある。たとえば

- 何点おきに結んだかによって、 $n$  の値が同じでも数種類できることがある。
- 一筆書きできるものとそうでないものがあり、それは  $n$  の値と何点おきに結んだかによって法則がある。
- 星型  $n$  角形は、正  $\frac{n}{2}$  角形とも表わすことができる。

などである。このような星型  $n$  角形にたいして、子どもたちも興味をもって取り組むことが予想される。

今回は、この星型五角形の頂角に目を向け、その和を考えさせる。180度であることは変わらないが、それを求めるための考え方はいろいろなものが考えられる。

5. クラスの実態

全体的にはしっかりと考え、落ち着いて学習に取り組める児童が多い。一つの問題を解くうえで、違った角度から考え、友達とは違った解法を考えつくことに喜びを感じる児童も多い。そうした良い意味での競争意識も強く、それが意欲につながっていることも多く見られる。

一方、積極的に自分の意見を言うという点ではもう一歩である。自信がないと手をあげないといった子どもも見られる。今回のような課題では、正解の数値は1つでもそこに至る考え方は数多くあるので、それぞれの児童が自分の考え方で取り組んでくれることが期待できる。

なお、本クラスのIQとFQ（知能因子指数）の平均は次のとおりである。

| IQ    | 図形    | 記号    | 概念    | 認知    | 記憶    | 拡散思考  | 集中思考  | 評価    |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 169.9 | 176.9 | 163.5 | 169.3 | 171.0 | 177.5 | 160.4 | 179.1 | 169.1 |



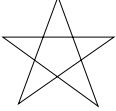
6. 指導計画 (2時間扱い)

- (1) 星型五角形の頂角の和 .....1校時 (本時)
- (2) 星型 n 角形の頂角の和 .....1校時

7. 本時のねらい

星型五角形の頂角の和を、いろいろな方法で求めることができる。

8. 本時の指導過程

| ねらい  | 学習活動   | 指導の重点および留意点   |
|--|--|---|
| <p>1. 星型五角形について理解させる。</p> <p>2. 星型五角形の頂角の和を求めさせる。</p> <p>3. 星型六角形・星型七角形についても考えさせる。</p> | <p>○星型五角形をいろいろ描いてみる。</p>  <p>○一つの解法が見つかったら、別の解法も考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>予想される解法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5つの頂角を1つの三角形の内角に集める。</li> <li>・平行線を利用する。</li> <li>・五角形の内角を利用する。</li> <li>・外側の三角形5つと内側の五角形に注目する。</li> <li>・凹四角形を利用する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p> </div> <p>○星型六角形・星型七角形はどのような形になるのか考える。</p> <p>○それぞれの頂角の和を求める。</p> | <p>○正星型五角形と一般的な星型五角形について理解させ、また「頂角」の概念をとらえさせる。</p> <p>○どのような場合も頂角の和が<math>180^\circ</math>になることを確認する。</p> <p>○一通りの解法に留まらず、なるべく多くの解法を考えさせる。</p> <p>○ある程度の時間がたったら、数人に発表させる。</p> <p>○星型六角形は一筆書きではできないことに気づかせる。</p> <p>○星型七角形については、2種類できることに気づかせる。</p> <p>○星型 n 角形という概念をとらえさせる。</p> |

## 数学科学習指導案

9：20～10：20 於学習室

指導者 細 沼 克 吉

1. クラス名：あさぎり・しらさぎC組（6年生）  
男子6名 女子7名 計13名 聖徳式（個人）平均IQ147.8
2. 授業設定の視点：創造的知能の開発と育成を目指した学習指導
3. 授業の題目：階段の登り方の総数
4. 題目について

今回扱う「階段の登り方の総数」は投げ込み教材で、正規のカリキュラムに含まれている内容ではない。本学園では子ども達の実態や興味に応じて、このような内容も入れて授業を行っている。それは子ども達が目新しい内容であっても、挑戦していく中で柔軟な思考力を育て、数学に対する興味関心をさらに広げていって欲しいと考えるからである。今回扱う「階段の登り方の総数」は階段の段数を2段・3段・4段と増やしていくと、それに伴う登り方がどのように変わってくるかという課題である。階段を登るという普段の生活で何気なく行っていることであるが、の登り方を様々に考えていくと思考を要する内容であり、しかもこれまでの学習内容と様々な点で結びついていくものである。子ども達は5年生で「数列」の内容を学習し、おもに等差数列とその和を求める方法などを学んできている。今回扱う階段の登り方は、登り方を1段・2段・3段・・・と何段とばしてもよいことにすると総数が等比数列と同じになる。子ども達はその規則性に気付くとともに、その総数を求める方法にまで思考を働かせていくことができればと考えている。

### 5. クラスの実態

6年生の数学の授業は児童の能力および実態に応じて、A・B・Cの3クラスで指導を行っている。本クラスは3つのクラスの中では13名と一番人数の少ないクラスである。数学は苦手意識を持っている子ども達が多いが、その分出来る事に喜びを感じて取り組んでいる子が多い。これまで学習してきた比例・反比例の内容でも、伴って変わる量にはどんなものがあるかを自分たちで考えさせたところ、「使う電気の量と電気代」「使ったあとの消しゴムの重さとけしカスの重さ」など自分たちの生活から色々と例を考えていくなど、積極的な学習姿勢が見られた。今回扱う量階段の登り方の総数は、数列の問題としてはかなり難しい内容である。子ども達が粘り強く考えていく中で、その規則性に少しでも迫ることができればと考えている。

本クラスのIQ（知能指数）とFQ（知能因子指数）の平均は次のとおりである。

| IQ    | 図形    | 記号    | 概念    | 認知    | 記憶    | 拡散思考  | 集中思考  | 評価    |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 147.8 | 154.3 | 138.1 | 151.2 | 148.5 | 149.2 | 150.0 | 156.9 | 134.6 |

6. 本時のねらい

階段の登り方の総数を考え、その規則性に気付くことができる。

7. 本時の指導過程

| ねらい   | 学習活動   | 指導の重点および留意点   |
|---|--|---|
| <p>(1) 4段の階段の上り方について、どのような登り方があるかを考えさせる。</p> <p>(2) 5段、6段……の階段について何通りの方法があるかを考えさせる。</p> | <p>① 4段の階段の登り方について、どのような登り方があるかについて考える。</p> <p>② 4段の階段の登り方のうち、何段でも一度に登ってもよいものとし、何通りの登り方があるか考える。</p> <p>③ 何通りの登り方があるかを発表する。</p> <p>(2) ③で発表された方法を生かして、5段、6段……の総数を考えていく。</p> | <p>① 登り方も様々な登り方があることに気付かせる。その中で数学的に求めることができるものを考えさせる。</p> <p>② 2段、3段の登り方を生かして考えられることに気づかせていく。</p> <p>4段、5段と考えながら、その中で規則性があることに気付かせるとともに、その規則性の根拠も考えさせていく。</p> |

# 全 体 会

10：30～11：40 於：講 堂

## 1. あ い さ つ

園長・校長 和田 知之

## 2. 園児・児童発表

5 歳児 歌 唱

4 年生 合 奏 唱

## 3. 研 究 発 表

「自分を知るために  
～聖徳の国語～」

国語科 川口 涼子



# 平成27年度の研究活動計画



---

## 研究部の活動計画

---

### 研究テーマ「英才児の創造的知能の開発と育成」

恩田彰先生は創造性を「新しい価値あるもの、またはアイデアを作り出す能力すなわち創造力、およびそれを基礎付ける人格特性すなわち創造的人格」と定義している。つまり、創造性は創造力と創造的人格の総合概念であるということになる。

創造過程という観点から見た場合、この新しさとは、社会的価値基準に照らしたものではなく、個人にとって価値ある新しさという基準が立てられるというのである。これを、自己実現の創造性と言い換えることも出来るわけで、学校教育では特に重視されることになる。即ち、創造活動では独創性が尊重されるから、個性の開発と育成が基本となってくる。これは私たちにとって、創造性を考える際のもっとも基本的視座になるものと思う。

また創造性は、創造的思考、創造的技能および創造的態度の三つの側面からとらえることができるという。この面から見た時に私たちには多くの蓄積があるわけであり、特に知能教育が積み上げてきた成果は言うまでもないことである。

私たちはこれまで、次のような研究課題を挙げて取り組んできている。

- (1) 各教科における創造性教育の実践例の整理 — その因子と方法（技能）—
- (2) 各教科における創造性教育の可能性を探ることと、因子の特定
- (3) 子どもたちの成長と、創造性の相互関連を明らかにすること
- (4) 英才児の創造的思考の実態の抽出
- (5) 子どもの、イマジネーションの問題として捉える方法

これらについては、平成9年度夏期研修合宿の場で、園田元校長より「創造的知能をどのような内容と方法で開発育成するか」の研究の指針として、以下①～④の提案があり、それ以来各場面で、実践・研究を繰り返し行っている。

- ① 知能訓練（知能あそび）による創造的知能の育成と開発
- ② 教科の指導による創造的知能の育成と開発
- ③ 学級活動・委員会・クラブ・自由研究・学校（園）行事等の特別活動による創造的知能の育成と開発
- ④ 個性・創造性を認める環境作り

— お互いを認め合う雰囲気・横並びや同質思考に捉われない価値観等 —

(4)の具体的取り組みについては、10年以上前までに遡って、過去の実践研究・授業研究・公開研究発表会・自由研究・特別研究などの中から、英才児の創造性に関わる研究を洗い出している。また、定期テストの成績検討会議に全教員が、特色ある児童の実態を報告する資料『英才児を探るⅡ』も、これまでに形態を変えながら積み重ねてきている。昨年度、新たに「英才児を探る」委員会が新設されたことにより、『聖徳学園における“英才児像”』を集約する体制が整ったので、より内容を明確にしてまとめていきたい。

(5)の具体的取り組みについては、次のa.～d.がある。

- a. 各教科の年間指導計画の中に創造性との関わりを捜していく。
- b. 教科毎に研究テーマを設定し、教科の責任において研究を推進する。
- c. 英才教育の指針を定める基盤を作りつつ進むために、各個人がテーマを決め実践する。
- d. 本校ならではの、教材・授業展開・2人指導制などに重点を置いた授業研究。



---

## 知能教育研究部の活動計画

---

本校では昭和44年から小学校における知能教育の実践研究に取り組んでいる。「知能教育」というのは、文部科学省の学習指導要領の内容にもなく、むしろ教科書もない。従って、教育内容（カリキュラム）から教材・教具まで全て独自に作り上げていかなければならない。

そこで、我が国の知能教育の先覚者伏見猛弥先生の指導を仰ぎ、アメリカのギルフォード教授の知能構造理論に基づき、実践を重ね、知能教育の基礎を築き上げてきた。現在は、2歳児から小学4年生までを対象にして、一貫した教育内容と方法で、‘幅の広い思考力の育成’と‘創造性豊かな人間性の育成’をめざした研究活動に取り組んでいる。

### 1. 目標及び活動内容

#### (1) 知能因子の分析と教材開発

知能教育の教材・教具は全て手作りのため、週一回の定例の研究会では日々新たな教材開発を中心に行なっている。教材作成においては、次の点に留意して研究を深めている。

- ① 授業のねらい（知能因子）を十分に押さえる。
- ② 子どもの発達段階（興味・知識・思考）を十分に考慮する。
- ③ 単なる子どもの興味だけに流されないで、教育的価値を十分に考慮する。
- ④ 一人ひとりの子どもの能力に十分対応できるように（能力の限界への挑戦）、内容に幅をもたせ、発展性のあるものにする。
- ⑤ 学習の流れに変化をもたせるようにする。
- ⑥ 個別指導について十分に配慮する。

#### (2) 指導技術の向上

知能教育というのは、知識を教えるのではなく考える力を育てるわけであり、必然的に教科の学習指導法とは異なる点が多くなる。そこで毎時間の実践記録を基に、次の点をポイントにして授業研究を深め、指導技術の向上を図っている。

- ① 一人ひとりの子どもの能力と個性に応じた指導を行なう。
- ② 意欲・集中力を育てる。
- ③ 教えるのではなく、考えさせることに重点を置く。
- ④ 思考過程を大切にす。〔「できた・できない」の結果だけにこだわらない。〕

#### (3) 実践結果の分析と資料作り

### 2. 今年度の活動の重点

- (1) 二人指導などの聖徳の特色を活かした指導方法の研究を深め、指導技術の充実を図る。
- (2) 『聖徳式知能検査法』の実施結果を分析し、充実を図る。
- (3) 個性と能力に応じた指導の充実。
- (4) 授業での実践を通しての研究を継続的にまとめ、次の教材開発や授業に活かす。

---

## 国語科研究部の活動計画

---

### 1. 目標

- (1) 言葉に先行する精神発達の最前線における児童の成長の課題と児童を接触させることにより、その精神発達を促そうというのが私たちの基本的考え方である。
- (2) そのためには、英才児に特有の思考・感情および意識の発達の実態を捉え、その基礎資料に基づいた教材の開発、授業方法の研究がなくてはならない。

### 2. 研究課題

成長の課題を授業として取り上げるためにはこれに適した素材がなくてはならない。したがって、検定教科書をそのまま使用せず、幅広くさまざまな文章を集め教材としている。私たちには成長課題の特定と教材の選定が何よりも重要なことである。

そこで、人間の意識活動を大きく、感情・思考・構えの三つに分け、これに用具言語を加えた四本の柱によって私たちの国語の学習領域は構成されている。用具言語は言語作業的な領域を含み、主に練習によって習得するものである。言語作法・文法事項・漢字を含む語彙などである。

感情の領域は、感情であるから喜怒哀楽をということだけでなく、子どもたちの感情発達の階梯を見届ける姿勢をとっている。例えば、「ごんぎつね」はひとりぼっちを、「白いぼうし」は現実・非現実を考えるための材料となる。この場合授業はひとりぼっちをめぐるの、子どもたち一人ひとりの課題・問題点を整理する場となる。思考は感情とともに人間の精神活動の重要な一部である。人間の思考路線を、児童の中に追究する姿勢をとり、一人ひとりの思考の内容・方法・段階に接近している。構えとは、身構え・気構え・心構えなどという感覚構造を示す言葉で、母国語の習得を考えるとき、なくてはならない視点であると考えている。われわれは、生まれたときから、人間らしい対象の定め方を習得し、その対象と人間の交わりにおける人間限定のあり方を構えと呼んでいる。

### 3. 今年度の重点目標

#### ① 聖徳学園が目指す国語科教育の追究

「思考」「感情」「構え」の三領域と「言語事項」を教材の基本構造と捉え、子ども達の成長課題に接近するといった点が本校独自の基本的な考え方であり、その研究をカリキュラム成立当初まで遡りながら進めるとともに、現状に見合った形で教材研究を進めていく。

#### ② 書写指導を含めた用具言語面の指導の充実

言語作法・文法事項・漢字、並びに正しい姿勢で美しく正しい文字を書くといった基本的な学習内容に関して、重要な国語力の一環として位置付け低学年の時期から系統的に取り組んでいく。

#### ③ 卒業論文指導の充実

論文のテーマである「私と言葉」は、ことばを私という主体者との関わりで論ずること、つまり「私と私」「私と他者」「私と社会」「私と自然」「私と歴史」との関わりをことばを媒介にして見つけることにそのねらいがあり、だからこそ、子どもたち一人一人が自分と向き合えるようにすることが大切といえる。

書きながら考える、書くことによって考える、そうすることによってまだ明確にしていなかった問題点をつかんでいく、このような姿勢と能力を6年間かけて指導していく。

---

## 数学科研究部の活動計画

---

事象を数理的にとらえ、論理的に考え、統合的、発展的に考察し処理する能力と態度を育成することを目標としている。具体的な学習活動については、以下の通り。

- ：数量・図形などに関する、基礎的な知識の習得や基礎的な概念・原理・技能の理解・習熟を図り、的確に活用して数学的な処理・考えを生み出す能力を養う。
- ：数学的な用語や記号を用いることの意義について理解を深め、数量・図形の性質や関係を簡潔・明確に表現し、思考をする能力と態度を養う。
- ：事象の考察に際して適切な見通しを持ち、論理的に思考する能力を伸ばすと共に、目的に応じて結果を検証し処理する態度を養う。
- ：体系的に組み立てていく数学の考えを理解させ、その意義と方法を気付かせる。

### 1. 今年度活動のねらい

- (1) 児童が挑戦するなかで、能力を高められる授業及び教材の研究と充実。
- (2) 学年（クラス）間の相互連絡を密にして、系統的な学習指導の徹底を図る。
- (3) 各単元と知能因子の関係について探り、個々の創造性を生かした授業形態を追究する。

### 2. 今年度の活動の重点

- (1) 基礎学力の充実及び能力の限界に挑戦させるべく、個々の児童に応じた指導と教材研究を行う。
- (2) 一人ひとりの子どもの個性と能力差に応じたきめ細かい指導を行うため、二人指導制を更に充実させていく。
- (3) 毎月1回実践報告会を開き、各学年及びクラスごとの指導状況・反応・反省を出し合い、本校の数学教育の特徴をより明確に実践していくためのカリキュラム・テキスト教材・指導方法の再検討と熟成を図っていく。更に、プリント・ゲーム類もそれぞれのクラスの実態に応じて工夫し利用していく。
- (4) 授業研究の充実を図るために、校内授業研究や教科内での授業研究を行っていく。
- (5) 個性を伸ばすという本校の教育目標、また数学への興味付けという観点から、「算数オリンピック大会」など外部の催しにも積極的に参加する。
- (6) 各指導者が数学の指導に関する自主研究テーマを設定し、年間を通じてその研究に取り組む。また、その成果を互いに発表し検討を行うことにより、力量を高め合う。
- (7) 聖徳の特色ある数学教育を推進していく。

---

## 英語科研究部の活動計画

---

### 1. 活動のねらい

- (1) 前年度を振り返り、カリキュラムの精選・吟味を行う。
- (2) 子どもの活動を中心とした授業、教材に留意する。
- (3) 少人数での授業形態を活かし、一人ひとりの個性に合わせた指導に努める。
- (4) 授業形態にあわせた「評価方法」に留意する。
- (5) 異文化に触れる機会、教材の設定に留意する。
- (6) コミュニケーション能力育成のため、スピーチ活動に重点を置く。
- (7) インターネット等を使った国際交流を実践する。
- (8) 外国人教員とともに指導内容・方法・評価について研究する。

### 2. 方法

毎週行われている教科会の中で検討していく。

各教員がお互いの授業を研究し、英語科での共通の課題を見つけ取り組んでいく。

また、外部の様々な研修会等に参加し研鑽を積む。

### 3. 今年度の活動の重点

- (1) 子どもたちの興味関心や発達段階に応じたカリキュラムになるよう、今まで実践してきたテーマや指導内容についてもう一度検討、吟味していく。
- (2) 絵本を中心に、話の内容を楽しみながら、英語の単語や表現をできるだけ自然な形で身につけられるように指導していく。そのための絵本や教材の研究に力を入れていく。
- (3) 教員から一方的な知識を与える講義式の授業に陥らないように、ゲームやその他様々な活動を通して子ども主体の授業になるよう心がける。  
また、小学生は音声面で優れているので、歌やナーサリーライム・ジャズチャンツなどを通して、この時期にしか身につけられない英語の音に慣れさせる。
- (4) 指導内容の検討だけでなく、その内容をどう教えていくかという指導方法について、教科内でお互いに提案し実践する。
- (5) 小学校での英語教育の評価方法を考えるとき、ペーパーテストだけでは測れないものが多い。面接試験を行うことで、子どものスピーキングやリスニングの力を知ることができる。その面接試験のあり方についてさらに研究、工夫する。また英語学習の集大成としてスピーチに取り組ませる。
- (6) 本校での英語教育が現在中学校で行われている英語教育の先取り教育にならないように、小学校での英語教育の目標を再検討する。子どもたちが国際的視野を持った大人になるためには、どのような学習が必要なのか（特に小学校段階においては）を検討する。
- (7) 現在のカリキュラムに基づいた授業だけでなく、定期的に世界のいろいろな国の人たちと接する機会を持てるような企画を立てる。また、希望者には英検などにチャレンジさせ、児童の英語学習の励みとなるようにする。

---

---

## 理科学研究部の活動計画

---

---

### 1. 目 標

- (1) 各クラスに応じた授業を工夫し、児童の能力の限界に挑戦させ、学力を保障する学習指導の推進を行う。
- (2) 各学年の発達段階に応じた授業を工夫し2年生から6年生までの系統的な学習指導を目指す。
- (3) 飼育活動や観察会・見学会などの企画を通して、児童の科学や自然に対する興味・関心の向上をはかる。

### 2. 今年度の重点項目

- (1) 英才児の知能を活かした授業の実践  
英才児の創造的思考を引き出すための各学年の指導方法・内容を開発し、その実践を積み重ねる。
- (2) 日常生活に密着した理科の指導  
身近な生活の中の疑問や自然と触れ合う実体験を大切にした指導の具体化をさらに進め、実践の中からよりよいものを目指していく。
- (3) 自然観察会の充実  
〈位置付け〉 ①自然と直接触れる場 ②授業への興味付けの場 ③授業の発展の場  
今年度の主な活動内容（予定）は、以下の通り。
  - a. 植物の観察（3年生対象） ◇川原の草花の観察・スケッチ …… 10月17日（2学期）
  - b. 動物の観察（5・6年生対象）◇水鳥の生態の観察 …… 2月予定（3学期）
  - c. 星の観望会（5・6年生対象）◇月・惑星の観望 …… 1月15日（3学期）
  - d. 石の仲間集め（aと同時開催）◇石の色・粒子などの違い …… 10月17日（2学期）
  - e. 川の上流域の観察（4年生対象）◇川原の石の観察 …… 5月16日（1学期）
- (4) 特別授業の企画・実施  
○ SSISS (Scientists Supporting Innovation of School Science) NPO法人科学技術振興のための教育改革支援計画の特別授業を実施……特別研究理科対象
- (5) 気象観測活動の充実・地震に関する掲示の充実  
東日本大震災をきっかけに、気象観測委員会の活動の一環として、日常的な地震の観測活動に取り組んでいる。

### 3. 継続的に取り組んでいる項目

- (1) 実験技能の向上と安全確保を目指した指導方法の開発。
- (2) 施設を利用した校外授業の充実。
  - 2年生『恐竜』 ◇国立科学博物館の見学 …… 9月18日（2学期）
  - 5年生『星』 ◇プラネタリウムの見学 …… 12月（2学期）
- (3) 飼育活動（水槽）栽培活動（花壇・温室等）に関する研究。温室を活用した学習活動の充実。
- (4) 自然のたより 2年生を対象に、身近な自然の観察記録をとり、週に一度、冊子にして配布。さらに発展的に植物画コンクールへの出品。

---

## 地理科研究部の活動計画

---

### 1. 目標

- ① 「空間的な広がり」をつかませるために、さまざまな角度から地理的事象を眺め、思考させる。(2～4年)
- ② 人間関係を理解する上において、自然環境を広い視野からとらえ、人間生活との関係、地域相互の関係を考察し、処理する能力と態度を育成する。(4～5年)

### 2. 指導方針

- ① 鳥瞰図的視点を獲得し、空間の連続性を意識しながら、地図を豊かなイメージでとらえていく能力を養う。
- ② 地図・統計の取扱いについての知識・技能を獲得し、それらを使いこなせる能力と態度を養う。
- ③ 地図・統計の中から、目的に応じて適切な資料を選択し、信頼性・妥当性を検証した上で、判断の基準の中に組み入れていく能力と態度を養う。
- ④ 諸外国の文化に対する理解を深め、国際社会における日本の役割を考え、国家および世界の一員としての自覚を深める態度を養う。
- ⑤ 日本の国土の保全及び地球規模での環境問題について考える態度を養う。

### 3. 今年度の研究課題と教育活動

#### ① 指導内容と教材の精選化

英才児の地図学習のあり方について、研究を深めていく。

5年生の産業の学習において、4年生までの学習をより有効に活用するための教材・授業形態を工夫していく。その際、日本と世界のつながりという点も重点の一つとしていく。

特別研究に関して、特に3学期の世界的な視野での問題解決のためのアプローチについて、さらに充実させていく。

#### ② 学校行事と結びつけた効果的な学習の内容と方法の研究

林間学校・修学旅行などと、地図学習・自然地理・地誌学習との効果的な融合のさせ方について検討していく。また秋の校外授業については、4年生の上下水道、5年生の工場見学などを計画する。

#### ③ 巡検（対象：5年生以上の希望者）の充実

身近な地域での地図の読図など、子ども達の主体的な取り組みを中心にして、毎年行っている。今年度は11月4日を予定している。

#### ④ 作品および教材掲示の充実

スペースを最大限活用しながら、児童の作品や立体地図模型と説明文などを中心に、掲示が学習の意欲付けとなるよう心がける。

---

## 歴史科研究部の活動計画

---

歴史科では、4年生から3年間を通じて、歴史認識に必要なさまざまな思考力を育成することを目標としています。ただ単に知識を蓄積していくのではなく、頭の中に思い浮かべるイメージを大切に、そこから展開される歴史叙述をもっとも重視します。

歴史学習の第1段階は、「想像力の育成」です。過去の出来事という追体験のできないことを、子ども達が思考や体験の中に持っているものの中から、イメージとして再構築することに授業の重点を置いています。具体的には、歴史学習の導入期として物語を通して楽しく達成できるように工夫しています（昔話・人物伝学習）。

次の段階として、「立場や視点を転換してとらえる思考の育成」に重点が置かれます。その時代の人間になったつもりでものを考え、歴史事象を異なった視点から対比する思考の働きです。

こういった指導は、現代的な発想や一面的な思いこみに偏らない柔軟な思考を可能にさせます。5年生での人物伝学習で、吉田松陰と井伊直弼といった対極的な立場にある人物を扱うのは、このような理由からです。

そして最終段階として、「自分なりの課題を見つけ、資料に基づいた論理的な思考」ができるようにめざしています。ここで言う「論理的思考」とは、物事の原因・結果・影響が相互に関連しながら流れていくことを認識させることです。

こういった思考を学習の中で表現するとき、概念があいまいなままに知識を並べていくのではなく、人間が主人公となって自分なりの仮説や歴史叙述ができるように、一人ひとりの特性にあった働きかけを大切に考えています。

### [今年度の重点課題]

#### 1. 「学園のあゆみ」における授業深化をめざす

「建学の精神」を子ども達に伝える…… 私学においては大変重要な課題です。歴史の授業では、卒業を前に人物伝として「学園のあゆみ」を取り上げてきましたが、さらなる教材研究によって、各学年の段階を追った学習をめざしています。

#### 2. フィールド学習の充実

昨年度は調布飛行場の周辺を歩き、太平洋戦争の戦争遺跡を歩きました。参加した6年生の子の中には、自分たちのクラス名が旧国鉄の特急の名前であることから、その由来が軍艦の名前であることをつきとめ考察した子もいます。今年度も、土曜休みを利用したフィールドワークの特別授業を実施します。

#### 3. 発表力の育成

グループで調べ学習を行い発表する、という旧来のものから一歩進めて、子どもなりに発表方法を工夫させ、歴史的な出来事を寸劇やコントで発表したり、テーマクイズにしたりという指導にも力を入れています。

#### 4. 世界文化遺産についての興味関心を深める

富岡製糸工場跡に続き、6年生が修学旅行で訪れている松下村塾が世界遺産になる見通しになりました。これを機会に現在の候補地についても調べさせていきたいと考えています。

---

## 体育科研究部の活動計画

---

聖徳学園では、児童の発達に応じた指導を行い、子ども達一人ひとりの能力を最大限に発揮できるようにしています。そこで、体育科では、次のことについて指導の重点を置いています。

1・2年生については「遊び」を中心として、子ども達が体育に対して興味を示し、楽しく学習出きるような教材づくりに重点を置いて指導しています。また、3・4年生では「ゲーム」を中心としてルールを守りながら、集団スポーツの楽しさを教えていきます。5・6年生になると今まで学習してきた内容に更に技術的な内容を加えて、基礎を中心に指導しています。

この時期に技術的な内容を学習することで、高学年での発展へと結びつけていきます。特に高学年になると授業での工夫が必要になり、『できるようになるためには』どうすればよいのか？などを子ども達が考えられるようにさせることが大切です。

### ○ 聖徳学園として独自性を出した体育科としてのカリキュラムづくり

子ども達の発達段階を十分把握して、教材の工夫などを中心に、子ども達の意欲づけになるような授業方法を目指しています。子どもにとって、わかりやすく、身につけやすい内容にしていきたいと思えます。

### 体育科行事計画

聖徳の体育行事は以下の3つを行っています。

#### 〈運動会〉 10月上旬

毎年、幼稚園と小学校と合同で運動会を行っています。内容については、体育科で検討し、できるだけ新鮮な内容を目指しています。特に児童一人ひとりが活躍できるように役割を工夫して取組みの場を多く持たせています。

#### 〈マラソン大会〉 10月下旬

マラソン大会に向けて、体育科では練習計画を設定し、実施しています。特に安全面に重点を置き、子ども達が粘り強く能力を発揮できることを心がけています。距離については、次の通りです。

距離：1～3年＝2km、4～6年＝4km

#### 〈スキー学校〉 2月中旬

3～5年を対象にして、毎年、3泊4日間のスキー学校を開校しています。場所は長野県北志賀高原にある竜王スキー場で実施しています。自然の冬の厳しさや楽しさを感じながら、高学年は技術の向上、低学年は楽しさを学びながら、スキーに慣れさせていきます。子ども達の様子を見てみると、小学校時代に3回は行けることになり、かなり滑れるようになります。

#### 〈その他〉

この他には、11月23日(祝)に東初協の私立小学校との交流として行われる体育発表会にも積極的に参加しています。



---

## 音楽科研究部の活動計画

---

聖徳学園では「一人ひとりの子どもの個性を育てる」「知能を伸ばし、創造性豊かな人間性を育てる」「豊かな感性と自立心を育てる」の3つを教育目標として掲げています

音楽科ではこの目標のために、音楽への興味関心を持ち、高め、音楽経験をいかして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣の育成に努めています。また、音楽の基礎的な表現能力を発達段階に応じて育み、音楽表現の楽しさ、喜びを味わえるように留意しています。

日常の授業に加えて、秋の聖徳祭ではクラス活動を主体とする一面もあわせながら、音楽発表を中心とした表現活動を取り入れ、低学年では歌唱と鍵盤ハーモニカの演奏、中学年では歌唱とリコーダーの演奏、高学年では合唱と合奏に取り組んでいます。

「一人ひとりの個性」を尊重しながら、集団でひとつの楽曲に取り組み、創り上げるという活動は、「知能を伸ばし、創造性豊かな人間性を育てる」ことにもつながり、さらには「豊かな感性と自立心を育てる」ことにもつながっています。

心技体のバランスのとれた子どもの成長のために、現代において音楽という教科の持つ今日的意味・意義は、他の教科と同様に重要と考えられます。

### 1 目標、及び活動内容

- ① 様々な音楽活動を通して刺激を与え、感性を育て、バランスよく基礎的な能力が身に着くよう工夫する。
- ② 歌唱、器楽、鑑賞、創作の4領域が持つ多面性を授業の中で効果的に生かせるよう、そしてそれが6年間を通じて体系的に作用するよう考慮し研究する。

### 2 今年度の活動の重点

- ① 1年～6年までの年間指導内容の精選、及び行事等での活用について。
- ② 学校行事（公開研究発表会、聖徳祭、児童朝礼等）における各学年に適した内容の研究。
- ③ 外部講師、演奏家等を招いての「特別授業」の実施。（4年生と5年生）
- ④ 東初協音楽部会主催 音楽祭「さあ はじめよう」への参加  
今年度は11月29日（日）人見記念講堂 4年あずさ・やくも組
- ⑤ 総称として「音楽科フィールドワーク」と題し、コンサートやミュージカル等の鑑賞会やワークショップを、希望者を対象に企画していく。
- ⑥ ホームルームでの「音楽活動」の支援に関しては、これまで同様にCDを作成、教室配備していく。また、クラス活動において活用できるようにフロア毎にキーボードを設置する。
- ⑦ 入学式、卒業式等における児童の合奏、合唱による行事への参加。
- ⑧ 特別研究では研究や創作、調べ学習を中心とした活動を、器楽クラブでは行事における演奏やサポートを中心とした活動に留意していく。

---

## 美術科研究部の活動計画

---

### 1. 目的

- (1) 各学年の発達段階に応じた課題やテーマを設定し、のびやかな感受性と豊かな創造力が獲得できるように教材を工夫していく。
- (2) 個々の児童の個性が作品に反映し、よりの確な表現で仕上げたいけるように個別指導を確立していく。

### 2. 今年度の重点項目

- (1) 個性と能力に応じた、効果的な指導を工夫、開発していく。
- (2) 美術に対して興味が湧くような教材及び指導方法を追究していく。
- (3) 落ち着いた雰囲気の中で、児童が表現に取り組めるように、授業の展開を工夫していく。
- (4) 仕上げた作品に対して、自己評価の時間を確保していく。
- (5) 校内の作品展示に接することにより、児童の美術に対する関心や興味が向上し、鑑賞の能力が養われるようにする。

### 3. 研究課題

- (1) カリキュラムについて  
絵画表現、彫刻表現、デザイン、工作の関連性とバランスの配慮及び一貫性を持たせたテーマの展開方法を開発していく。
- (2) 各学年・クラスの実態に見合ったテーマや教材を開発していく。
- (3) 学内展示の充実。児童の作品だけでなく、古今東西の美術作品も鑑賞ができるように展示方法を改善していく。
- (4) 全国学校秀作美術展への参加については、本校児童の特色が表せるテーマを追求していく。

---

## 家庭科研究部の活動計画

---

小学校の家庭科においては、実践的・体験的な活動や問題解決的な学習を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身につけることや、自分の成長を自覚し、家庭生活を大切にする心情を育むこと、家族の一員として生活をよりよくしようと工夫する能力と態度を育てることをねらいとしています。

本校では、5・6年生の子ども達の発達段階と生活状況を踏まえ、一人ひとりの実態に留意しながら、様々な活動に取り組んでいます。その活動に取り組む中で、特に裁縫などの実習では子ども達一人ひとりの豊かな創造力を発揮できるよう、個々が工夫できる面を数多く作り、個々の創造性に沿った指導を心がけています。

### 1. 目標

- ① 生活を工夫する楽しさや物を作る喜びを知る。
- ② 家族の一員としての自覚を持った生活を実感する。
- ③ 自分の成長を理解し、家庭生活を大切にする心情を育む。

### 2. 今年度の活動方針および重点

- ① 一人ひとりの児童が意欲的に取り組み、自分の家庭生活をより充実したものにできる力を育てる。
- ② 生活を工夫する楽しさや物を作る喜びを知るために、出来る限り実技の時間を保障していく。
- ③ 基本的な技術は指導するが、工夫できる面は大いに個々の考えを尊重していく。
- ④ 『個』だけでなく、自分と共に生活する家族にも目を向け、『家族』という集団の大切さを意識させる。

# 研究発表会の歩み



## 研究発表会の歩み

### □ 第1回 (1969年)

主 題：学校における英才教育

|                   |          |         |
|-------------------|----------|---------|
| 記念講演 「学校における英才教育」 | 英才教育研究所長 | 伏 見 猛 彌 |
| ○研究発表 「国語教育について」  | 玉川大学 教授  | 上 原 輝 男 |
| 「数学教育について」        | 早稲田大学 教授 | 岩 崎 馨   |
| 「知能訓練について」        | 英才教育研究所  | 清 水 驍   |

### □ 第2回 (1970年)

主 題：学校における英才教育

|                        |                    |         |
|------------------------|--------------------|---------|
| ○記念講演 「英才教育5年間の経過と問題点」 | 英才教育研究所長           | 伏 見 猛 彌 |
| ○研究発表 「知能と学力との接点」      | 英才教育研究所<br>指 導 部 長 | 清 水 驍   |
| 「英研式知能検査法について」         | 英才教育研究所員           | 千 葉 晃   |

### □ 第3回 (1971年)

主 題：学校における英才教育

|                        |                    |         |
|------------------------|--------------------|---------|
| ○記念講演 「学校における英才教育の問題点」 | 英才教育研究所長           | 伏 見 猛 彌 |
| ○研究発表 「知能と学力との接点」      | 英才教育研究所<br>指 導 部 長 | 清 水 驍   |
| 「知能検査の問題点」             | 英才教育研究所員           | 千 葉 晃   |

### □ 第4回 (1972年)

主 題：小学校における知能教育

|                        |                    |         |
|------------------------|--------------------|---------|
| ○記念講演 「小学生の知能とその教育」    | 英才教育研究所<br>所 長 代 行 | 清 水 驍   |
| ○研究発表 「知能診断と教育評価の関連」   | 英才教育研究所<br>研 究 部 長 | 千 葉 晃   |
| ○研究発表 「教科の教育と知能教育との接点」 | 本校教務主任             | 園 田 達 彦 |
| ○研究発表 「知能教育のための教材」     | 本校教諭               | 小 林 五 郎 |
|                        | 本校教諭               | 郡 司 英 幸 |
|                        | 本校教諭               | 成 田 幸 夫 |

### □ 第5回 (1973年)

主 題：知能と学力

|                  |                    |       |
|------------------|--------------------|-------|
| ○記念講演 「本校における教育」 | 英才教育研究所<br>所 長 代 行 | 清 水 驍 |
|------------------|--------------------|-------|

○研究発表 「知能と学力との接点(1)」 — 知能指数と学業成績を中心にして —

本校教務主任 園田達彦

「本校における漢字指導」 本校教諭 小林五郎

□ 第6回 (1974年)

主 題：英才教育の追究 — 6年間の実践と問題点 —

○研究発表 — 各教科の実践をもとにして —

「数学科教材に対する児童の取り組み方」

本校教務主任 園田達彦

「歴史教育の方法と実践」 本校教諭 大竹良造

「思考の教材をどのように扱うか」 〃 草野修三

「空気の重さを中心にして」 〃 成田幸夫

□ 第7回 (1975年)

主 題：英才教育の追究 — 知能と学力 —

○記念講演 「現代学校と英才教育」 東京学芸大 学名譽教授 大嶋三男 先生

○研究発表 「知能と学力との接点(2)」 — 知能構造と学業成績を中心にして —

本校主事 園田達彦

○分科会研究発表

国語科 「英才児に於ける感情発達の過程」 本校教諭 草野修三

数学科 「知能因子からみた教材構造」 〃 吉井昇

理科 「理科工作教材を考える」 〃 成田幸夫

地理科 「地図と地球儀に対する児童の認識度」 〃 郡司英幸

□ 第8回 (1976年)

主 題：英才教育の追究 — 高知能児に応じた学習指導 —

○記念講演 「日本教育の課題」 国立教育研究所長 平塚益徳 先生

○研究発表 「知能と行動」 本校校務主任 小林五郎

○分科会研究発表

国語科 「文章理解の方法」 — 子どもの目に捉えられている場面映像はどのようなものか —

本校教諭 葛西琢也

数学科 「数学における英才児の特性」 本校主事 園田達彦

理科 「本校の子どもの理科に関する思考の特性」

本校教諭 成田幸夫

歴 史 「本校歴史科の授業展開」 — 因子別にみた知能の発達段階と

歴史科三段階の目標との関連 —  
本 校 教 諭 大 竹 良 造

□ 第9回 (1977年)

主 題：英才教育の追究 — 知能開発をめざした学習指導 —

○記念講演 「英才教育について」 — 大脳生理学の立場から —

東 京 教 育 大 学  
名 誉 教 授 杉 靖 三 郎 先 生

○分科会研究発表

知能教育「知能教育の必要性」 — 知能の発達過程を中心にして —

本 校 主 事 園 田 達 彦

国語科「知能と読みの接点」

本 校 校 務 主 任 小 林 五 郎

数学科「数学における英才児の特性とその指導法」

本 校 教 諭 吉 井 昇

理 科「科学的な思考方法と知能因子と学習課題との関連」

本 校 教 諭 成 田 幸 夫

地理科「地理科における知能因子と学習課題との関連」

本 校 教 務 主 任 郡 司 英 幸

□ 第10回 (1978年)

主 題：英才教育の追究 — 知能開発をめざした学習指導(2) —

○記念講演 「学校教育の現状と課題」 — 創造性豊かな子どもを育てるために —

筑 波 大 学 教 授 村 松 剛 先 生

○分科会研究発表

幼稚園教育「自主性を育てる遊び」

園 長 和 田 知 雄

知能教育「子どもの知能を伸ばすには」 — 意欲と集中力の育成と家庭の役割 —

本 校 主 事 園 田 達 彦

教科教育「知能開発（活用）をめざした学習指導」

本 校 校 務 主 任 小 林 五 郎

特別研究「一人ひとりの能力や個性に応じた指導」

本 校 教 務 主 任 郡 司 英 幸

□ 第11回 (1979年)

主 題：英才教育の追究 — 知能開発をめざした学習指導(3) —

○記念講演 「生涯教育と学校」

元 文 部 大 臣 永 井 道 雄 先 生



○分科会研究テーマ

幼稚園教育「本園における幼児教育」

知能教育「本園における知能教育」

教科教育（低学年）「知能開発をめざした学習指導」

教科教育（高学年）「一人ひとりの能力や個性に応じた指導」

□ 第12回（1980年）

主 題：英才教育の追究 — 知能開発をめざした学習指導(4) —

○記念講演 「これからの教育はどうあるべきか」

文部省教科調査官 渡辺富美雄先生

○研究発表 「卒業生の状況」— 追跡とその状況の分析 —

本校主事 園田達彦

□ 第13回（1981年）

主 題：英才教育の追究 — 知能開発をめざした

学習指導(5) —

○記念講演 「未来をみつめての教育」— 子どもの可能性を育てる教育 —

武蔵野音楽大学教授 大竹 武三先生

○分科会研究テーマ

幼稚園教育「本園における幼児教育」

知能教育「本園における知能教育」

教科教育（低学年）「知能開発をめざした学習指導」

教科教育（高学年）「一人ひとりの能力や個性に応じた指導」

□ 第14回（1983年）

主 題：英才教育の追究 — 英才教育15周年並びに校舎落成記念 —

低学年：知能開発をめざした学習指導(6)

高学年：一人ひとりの能力や個性に応じた指導(1)

○分科会研究テーマ

幼稚園教育「本園における幼稚園教育」

知能教育「本園における知能教育」

国語教育「本校における国語教育」

数学教育「本校における数学教育」

理科教育「本校における理科教育」

地理・歴史教育「本校における地理・歴史教育」

英語・体育教育「本校における英語・体育教育」

---

□ 第15回 (1984年)

主 題：英才教育の追究

低学年：知能開発をめざした学習指導(7)

高学年：一人ひとりの能力や個性に応じた指導(2)

○研究発表「子どものものの見方・考え方」— 国語の授業を通して —

本校校務主任 小林 五郎

○分科会研究テーマ

幼稚園教育「本園における幼稚園教育」

低学年教育「知能開発をめざした学習指導」

高学年教育「一人ひとりの能力や個性に応じた指導」

中学校教育「一人ひとりの能力や個性に応じた指導」

□ 第16回 (1985年)

主 題：英才教育の追究

幼稚園：考える力を育てる保育(1)

低学年：知能開発をめざした学習指導(8)

高学年：一人ひとりの能力や個性に応じた指導(3)

○研究発表「個性に応じた歴史学習」— イメージから論理的思考へ —

歴史科主任 大竹 良造

○分科会研究テーマ

教育課程「聖徳学園の教育について」

幼稚園教育「本園における幼稚園教育」

低学年教育「知能開発をめざした学習指導」

高学年教育「一人ひとりの能力や個性に応じた指導」

中学校教育「一人ひとりの能力や個性に応じた指導」

□ 第17回 (1986年)

主 題：英才教育の追究

幼稚園：考える力を育てる保育(2)

低学年：知能開発をめざした学習指導(9)

高学年：一人ひとりの能力や個性に応じた指導(4)

○研究発表「知能開発をめざした学習指導」— 地理・数学の授業から —

教 務 主 任 郡 司 英 幸

○分科会研究テーマ

教育課程「聖徳学園の教育について」

---

幼稚園教育「本園における幼稚園教育」  
低学年教育「知能開発をめざした学習指導」  
高学年教育「一人ひとりの能力や個性に応じた指導」  
中学校教育「一人ひとりの能力や個性に応じた指導」

□ 第18回 (1987年)

主 題：英才教育の追究

幼稚園：考える力を育てる保育(3)  
低学年：知能開発をめざした学習指導(10)  
高学年：一人ひとりの能力や個性に応じた指導(5)

○園児・児童・生徒発表

- ① 歌と合奏 幼稚園年長組 指導者 鎌田禮子, 松本阿佐子
- ② 英語劇 「The King's New Clothes (はだかの王様)」〈原作アンゼルセン〉  
中学2年生 指導者 米屋清貴, 佐藤久美子, 伊神直彦
- ③ 歌 唱 「山の歌」(夏の山, 山のこもりうた, 山のスケッチ, フニクリフニクラ)
- ④ 児童劇 「ほくたちの……ポチ」〈原作 梶本暁子〉  
小学5年生 指導者 内藤茂, 仁科建司

□ 第19回 (1988年)

主 題：英才教育の追究

幼稚園：のびのびとした子どもの活動を豊かにする保育  
低学年：知能開発をめざした学習指導  
高学年：一人ひとりの能力や個性に応じた指導

○全体会

- ① 歌 唱 4年生・指導者：林谷英治
- ② 聖徳学園における英才教育
  - 英才教育の基本方針 本 校 主 事 園 田 達 彦
  - 知能教育 本 校 教 務 主 任 郡 司 英 幸
  - 能力に応じた指導 本 校 校 務 主 任 小 林 五 郎
  - 個性に応じた指導 歴 史 科 主 任 大 竹 良 造

□ 第20回 (1989年)

主 題：英才教育の追究

幼稚園：のびのびとした子どもの活動を豊かにする保育  
低学年：知能開発をめざした学習指導  
高学年：一人ひとりの能力や個性に応じた指導

○全体会

① 歌 唱 3, 5 年生・指導者：林谷英治, 関戸道成

② 児童劇 4 年生・指導者：板橋裕之

③ 研究発表「聖徳学園における英才教育」

小 松 賢 司 教諭

□ 第21回 (1990年)

主 題：英才教育の追究

幼稚園：のびのびとした子どもの活動を豊かにする保育

低学年：知能開発をめざした学習指導

高学年：一人ひとりの能力や個性に応じた指導

○全体会

① 研究発表「聖徳学園における英才教育」

●知能開発をめざした学習指導

葛 西 琢 也 教諭

●一人ひとりの能力や個性に応じた指導

大 竹 良 造 教諭

② 児童劇 3 年生あずさ組「半日村」・指導者：松崎昭彦教諭・山本友子教諭

③ 歌 唱 4 年生・指導者：林谷英治教諭

□ 第22回 (1991年)

主 題：英才教育の追究

幼稚園：のびのびとした子どもの活動を豊かにする保育

小学校：個性を生かす, その視点と方法を求めて

○全体会

① 講 演「聖徳学園の目指すもの」

— 幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校の一貫教育について —

幼 稚 園 長 和 田 知 雄  
小 学 校 長

② 歌 唱 4 年生・指導者：林谷英治教諭

③ 歌 唱 5 年生・指導者：関戸道成教諭

□ 第23回 (1992年)

主 題：英才教育の追究

幼稚園：のびのびとした子どもの活動を助長する保育Ⅱ

小学校：個性を生かす, その視点と方法を求めてⅡ

○全体会

① 講 演「聖徳学園における幼稚園と, 小学校の教育」

— 幼稚園, 小学校の一貫教育について —

幼 稚 園 長 園 田 達 彦  
小 学 校 長

- ② 研究発表「授業実践を通して『英才児』の個性を探る」

歴史科主任 内藤 茂

- ③ 歌唱 4年生・指導者：林谷英治教諭

□ 第24回 (1993年)

主 題：英才教育の追究

幼稚園：子どもの知能の発達を助長する遊びをもとめて (I)

小学校：個性を生かす，その視点と方法を求めて (III)

○全体会

- ① 講演「聖徳学園における幼稚園と小学校の教育」

幼稚園長 園田達彦  
小学校長

- ② 研究発表「英才児の作文から，その個性を考える」

研究主任 葛西琢也  
教務主任 草野修三

- ③ 歌唱 5年生・指導者：関戸道成教諭

□ 第25回 (1994年)

主 題：英才教育の追究

幼稚園：子どもの知能の発達を助長する遊びをもとめて (II)

小学校：個性を生かす，その視点と方法を求めて (IV)

○全体会

- ① 講演「聖徳学園における幼稚園と小学校の教育」

幼稚園長 園田達彦  
小学校長

- ② 研究発表「英才児は地図をどう描くか — 子どもの空間認識と視点の転換 —」

地理科主任 松崎昭彦

- ③ 歌唱 5年生・指導者：関戸道成教諭

□ 第26回 (1995年)

主 題：英才教育の追究

幼稚園：子どもの知能の発達を助長する遊びをもとめて (III)

小学校：個性を生かす，その視点と方法を求めて (V)

○全体会

- ① 講演「聖徳学園における幼稚園と小学校の教育」

幼稚園長 園田達彦  
小学校長

- ② 研究発表「聖徳学園における創造力育成の実践  
— 自由研究・特別研究を中心に —」  
特別研究科主任 大河内 浩 樹
- ③ 合唱 4年生・指導者：林谷英治教諭

□ 第27回 (1996年)

主 題：英才教育の追究

幼稚園：こどもの知能の発達を助長する遊びを求めて (IV)

小学校：英才児の創造性の開発と育成 (I)

○全体会

- ① 合唱 4年生・指導者：林谷英治教諭
- ② 講演「聖徳学園における幼稚園と小学校の教育」  
幼稚園長 園田 達彦  
小学校長
- ③ 研究発表「聖徳学園における創造力育成の実践」  
工作科主任 加賀 光悦

□ 第29回 (1997年)

主 題：英才教育の追究

幼稚園：子どもの知能の発達を助長する遊びを求めて (VI)

小学校：創造的知能の開発と育成 (II)

○全体会

- ① 講演「聖徳学園 幼稚園・小学校の教育」  
幼稚園長 園田 達彦  
小学校長
- ② 研究発表「創造性と学習 — 数字の実践から —」  
数学科主任 松浦 博和

□ 第30回 (1998年)

主 題：英才教育の追究

幼稚園：子どもの知能の発達を助長する遊びを求めて (VII)

小学校：創造的知能の開発と育成 (III)

○全体会

- ① 講演「聖徳学園 幼稚園・小学校の教育」  
幼稚園長 園田 達彦  
小学校長
- ② 研究発表「卒業生のその後」  
教務主任 草野 修三

□ 第31回 (1999年)

主 題：英才教育の追究

幼稚園：子どもの知能の発達を助長する遊びを求めて (Ⅷ)

小学校：創造的知能の開発と育成 (Ⅳ)

○全体会

① 講 演「聖徳学園 幼稚園・小学校の教育」

幼 稚 園 長 園 田 達 彦  
小 学 校 長

② 研究発表「聖徳の英語教育」

英 語 科 主 任 藤 石 勝 巳

□ 第32回 (2000年)

主 題：英才教育の追究

幼稚園：子どもの知能の発達を助長する遊びを求めて (Ⅸ)

小学校：創造的知能の開発と育成 (Ⅴ)

○全体会

① 講 演「聖徳学園 幼稚園・小学校の教育」

幼 稚 園 長 園 田 達 彦  
小 学 校 長

② 研究発表「歴史における概念形成のための想像力の育成」

歴 史 科 副 主 任 板 橋 裕 之

□ 第33回 (2001年)

主 題：英才教育の追究

幼稚園：子どもの知能の発達を助長する遊びを求めて (Ⅹ)

小学校：創造的知能の開発と育成 (Ⅵ)

○全体会

① 講 演「聖徳学園 幼稚園・小学校の教育」

幼 稚 園 長 園 田 達 彦  
小 学 校 長

② 研究発表「創造的知能の開発と育成 — 知能訓練の実践から —」

知 能 訓 練 科 主 任 富 永 理 香 子

□ 第34回 (2002年)

主 題：英才教育の追究

幼稚園：個性と能力差に対応した複数指導 (担任) 制 (Ⅰ)

小学校：創造的知能の開発と育成 (Ⅶ)

○全体会

- ① 講演「聖徳学園 幼稚園・小学校の教育」

幼稚園長 園田達彦  
小学校長

- ② 研究発表「聖徳学園小学校の理科教育」

理科主任 三輪広明

□ 第35回 (2003年)

主 題：英才教育の追究

幼稚園：個性と能力差に対応した複数指導（担任）制（Ⅱ）

小学校：創造的知能の開発と育成（Ⅷ）

○全体会

- ① 講演「聖徳学園 幼稚園・小学校の教育」

幼稚園長 園田達彦  
小学校長

- ② 「創造的知能の開発と育成」— コンクール作品(作文)にみる聖徳児童の創造性—

国語科 内藤茂

□ 第36回 (2004年)

主 題：英才教育の追究

幼稚園：個性と能力差に応じた複数指導（担任）制（Ⅲ）

小学校：創造的知能の開発と育成（Ⅸ）

○全体会

- ① 講演「聖徳学園 幼稚園・小学校の教育」

小学校長 園田達彦  
幼稚園長

- ② 「聖徳における二人指導制」— 一人ひとりの個性と能力に応じた指導の追究—

教 頭 加賀光悦

□ 第37回 (2005年)

主 題：英才教育の追究

幼稚園：個性と能力差に応じた複数指導（担任）制（Ⅳ）

小学校：創造的知能の開発と育成（Ⅹ）

○全体会

- ① 講演「聖徳学園小学校・幼稚園の教育」

小学校長 園田達彦  
幼稚園長

- ② 数学・個性的な解法 — オープンエンドアプローチを通して —

数学科主任 齊藤勇



□ 第38回 (2006年)

主 題：英才教育の追究

幼稚園：個性と能力差に応じた複数指導（担任）制（V）

小学校：創造的知能の開発と育成（XI）

○全体会

① 講 演「聖徳学園小学校・幼稚園の教育」

小 学 校 長 園 田 達 彦  
幼 稚 園 長

② 学習発表「詩のボクシングの実践」— 英才児の個性・創造性育成の場として —

6 年 生 児 童 渡 辺 泰 介  
国 語 科

□ 第39回 (2007年)

主 題：英才教育の追究

幼稚園：個性と能力差に応じた複数指導（担任）制（VI）

小学校：創造的知能の開発と育成（XII）

○全体会

① 講 演「聖徳学園小学校・幼稚園の教育」

小 学 校 長 園 田 達 彦  
幼 稚 園 長

② 創造的知能の開発と育成研究 — 発明くふう展にみる聖徳児童の創造性 —

研 究 主 任 松 浦 博 和

□ 第40回 (2008年)

主 題：英才教育の追究

創造的知能の開発と育成（XIII）

個性と能力差に応じた複数指導（VII）

○全体会

① 講 演「聖徳学園小学校・幼稚園の教育」

小 学 校 長 郡 司 英 幸  
幼 稚 園 長

② 知の冒険心を育む学校図書館

司 書 教 諭 江 橋 真 弓

---

□ 第41回 (2009年)

主 題：英才教育の追究

創造的知能の開発と育成 (XIV)

個性と能力差に応じた複数指導 (Ⅷ)

○全体会

① 講 演「聖徳学園小学校・幼稚園の教育」

小 学 校 長 郡 司 英 幸  
幼 稚 園

② 聖徳の理科教育について

理 科 主 任 米 持 勇

□ 第42回 (2010年)

主 題：英才教育の追究

創造的知能の開発と育成 (XV)

個性と能力差に応じた複数指導 (IX)

○全体会

① 講 演「聖徳学園小学校・幼稚園の教育」

小 学 校 長 加 賀 光 悦  
幼 稚 園

② 聖徳の修学旅行

～子ども達が成長する5泊6日～

地 理 科 主 任 松 崎 昭 彦

□ 第43回 (2011年)

主 題：英才教育の追究

創造的知能の開発と育成 (XVI)

個性と能力差に応じた複数指導 (X)

○全体会

① 講 演「聖徳学園小学校・幼稚園の教育」

小 学 校 長 加 賀 光 悦  
幼 稚 園

② 創造的知能の育成

～幼稚園の知能あそびから小学校の授業へ～

知 能 訓 練 科 砂 廣 芳 子

□ 第44回 (2012年)

主 題：英才教育の追究

創造的知能の開発と育成 (XVII)

個性と能力差に応じた複数指導 (XI)

○全体会

① 講 演「聖徳学園小学校・幼稚園の教育」

小 学 校 長 加 賀 光 悦  
幼 稚 園 長

② 創造的知能の育成 ～豊かな視点を育てる(数学・地理の授業実践から)～  
(幼稚園の知能あそびから小学校の授業へ)

数 学 科 主 任 細 沼 克 吉

□ 第45回 (2013年)

主 題：英才教育の追究

創造的知能の開発と育成 (XVIII)

個性と能力差に応じた複数指導 (XII)

○全体会

① 講 演「聖徳学園小学校・幼稚園の教育」

小 学 校 長 加 賀 光 悦  
幼 稚 園 長

② 未来をひらく戦士を育てるために

～ 一年生の学級経営を中心に ～ 低 学 年 主 任 由 里 敏 夫

□ 第46回 (2014年)

主 題：英才教育の追究

創造的知能の開発と育成 (XIX)

個性と能力差に応じた複数指導 (XIII)

○全体会

① 講 演「聖徳学園小学校・幼稚園の教育」

小 学 校 長 加 賀 光 悦  
園 長

② 創造性を育むロボット教育

～ 特別研究数学の実践から ～ 教 頭 和 田 知 之

研 究 同 人

(平成27年度)

[理事長]

長 尾 央

[聖徳幼稚園]

|         |                          |
|---------|--------------------------|
| 園 長     | 和 田 知 之                  |
| 教 頭     | 松 浦 博 和                  |
| 主 任     | 飯 濱 久美子                  |
| 副 主 任   | 永 坂 圭 子                  |
| 生活指導主任  | 荒 井 明 子                  |
| 年 少 担 任 | 磯 沼 美 紀 (リトミックあそび・造形あそび) |
| 〃       | 北 村 満利恵 (知能あそび・体育あそび)    |
| 〃       | 園 山 恵理子 (造形あそび・リトミックあそび) |
| 〃       | 伊 奈 恵 理 (知能あそび・体育あそび)    |
| 年 中 担 任 | 荒 井 明 子 (リトミックあそび・造形あそび) |
| 〃       | 久 保 千 春 (知能あそび・体育あそび)    |
| 〃       | 飯 濱 久美子 (造形あそび・リトミックあそび) |
| 年 長 担 任 | 高 井 正 恵 (リトミックあそび・造形あそび) |
| 〃       | 大 下 真由美 (知能あそび・体育あそび)    |
| 〃       | 永 坂 圭 子 (体育あそび・知能あそび)    |
| 専 科     |                          |
| 教 諭     | 佐 藤 憲 夫 (体育あそび)          |
| 講 師     |                          |
| 〃       | 大 嶋 比查子 (知能あそび)          |
| 〃       | 粕加屋 恵 子 (知能あそび)          |
| 〃       | 松 浦 雅 美 (知能あそび)          |
| 〃       | 上ノ宮 純 子 (延長保育)           |
| 〃       | 大 槻 妙 子 (延長保育)           |
| 〃       | 柳 澤 由 理 (延長保育)           |
| 〃       | 鈴 木 佳 乃 (延長保育)           |

[聖徳学園小学校]

|           |         |
|-----------|---------|
| 校 長       | 和 田 知 之 |
| 教 頭       | 松 浦 博 和 |
| 教 頭       | 齋 藤 勇   |
| 教 務 主 任   | 粕加屋 直 幸 |
| 研 究 主 任   | 細 沼 克 吉 |
| 生活指導主任    | 大河内 浩 樹 |
| 低 学 年 主 任 | 米 持 勇   |
| 高 学 年 主 任 | 板 橋 裕 之 |

## 担 任

|            |                       |
|------------|-----------------------|
| のぞみ組（1年生）  | 渡 邊 孝 典（数学・地理）        |
| 〃          | 中 川 貴 仁（数学・知能訓練・美術）   |
| はやて組（1年生）  | 内 藤 茂（国語・歴史）          |
| 〃          | 歌 田 翔 真（数学・ゲーム工作・美術）  |
| くろしお組（2年生） | 細 沼 克 吉（数学・地理）        |
| 〃          | 谷 口 優（数学）             |
| はやぶさ組（2年生） | 米 持 勇（理科・数学・美術・ゲーム工作） |
| 〃          | 田 中 飛 鳥（国語・歴史・ゲーム工作）  |
| はまかせ組（3年生） | 大河内 浩 樹（理科）           |
| わかしお組（3年生） | 木 村 美 樹（数学・体育）        |
| 3年学年担任     | 千 葉 安弥子（数学・家庭）        |
| あずさ組（4年生）  | 三 輪 広 明（理科・数学）        |
| やくも組（4年生）  | 明 石 この実（国語・英語）        |
| 4年学年担任     | 板 橋 裕 之（国語・歴史・体育）     |
| つばさ組（5年生）  | 古 賀 有 史（英語・数学・音楽）     |
| みずほ組（5年生）  | 渡 辺 泰 介（国語・英語・家庭）     |
| 5年学年担任     | 佐 藤 憲 夫（体育）           |
| あさぎり組（6年生） | 松 崎 昭 彦（数学・地理・歴史）     |
| しらさぎ組（6年生） | 川 口 涼 子（国語・家庭）        |
| 6年学年担任     | 藤 石 勝 巳（英語）           |

## 専 科

|     |                      |
|-----|----------------------|
| 教 諭 | 三 品 亜 美（音楽）          |
| 〃   | 高 橋 まり子（知能訓練・ゲーム・工作） |
| 〃   | 豊 田 奈都代（知能訓練）        |
| 〃   | 富 永 理香子（知能訓練・国語）     |
| 〃   | 横 野 真 弓（知能訓練・ゲーム・工作） |
| 〃   | 地 挽 裕 子（知能訓練）        |
| 〃   | 松 尾 由 香（知能訓練）        |
| 〃   | 砂 廣 芳 子（知能訓練）        |
| 〃   | 浅 利 絵 海（知能訓練）        |
| 〃   | 白 田 恵 実（知能訓練）        |

司書教諭 江 橋 真 弓

養護教諭 吉 村 厚 子（保健）

|      |                    |
|------|--------------------|
| 講 師  | 草 野 修 三 (国語)       |
| 〃    | 由 里 敏 夫 (国語)       |
| 〃    | 藤 原 陽 子 (英語)       |
| 〃    | 大 嶋 比 查 子 (知能訓練)   |
| 〃    | 粕加屋 恵 子 (知能訓練)     |
| 〃    | 松 村 英 恵 (美術)       |
| 〃    | 内 藤 晴 美 (知能訓練)     |
| 〃    | 山 田 桂 子 (知能訓練)     |
| 〃    | アダム・イスフェンディヤー (英語) |
| 〃    | 須 藤 泰 規 (美術)       |
| 教育相談 | 加 賀 光 悦 (知能診断)     |
| テスター | 山 田 多 津 子 (知能検査)   |
| 〃    | 佐 藤 智 子 (知能検査)     |
| 事務次長 | 萩 原 夏 美            |
| 事 務  | 道 旗 えり子 (庶務・経理)    |
| 〃    | 澁 谷 香 耶 (庶務・経理)    |
| 環境美化 | 岩 瀬 勝 彦            |
| 〃    | 小 池 きみ江            |



第 47 回 公開研究発表会要項

---

発 行 日 平成 27 年 6 月 20 日  
編集企画委員 松 浦 博 和  
飯 濱 久美子  
豊 田 奈都代  
発 行 者 和 田 知 之  
発 行 所 聖 徳 学 園  
東京都武蔵野市境南町 2-11-8  
TEL ( 0 4 2 2 ) 3 1 - 3 8 3 9  
印 刷 所 株式会社 文 伸

---

©2015 (700)